

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

福井県 あわら市

自治体名：福井県あわら市

担当課名：スポーツ課

電話番号：0776-73-8043

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	116.98 km ²
人口	26,302 人
公立中学校数	2 校
公立中学校生徒数	608 人
部活動数	20 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

本市には、2校合わせて20の学校部活動がある。部活動の地域移行については、令和4年度に検討委員会を立ち上げ、5度の検討を重ねた結果、市にある総合型スポーツクラブ「あわらトリムクラブ」が学校に代わる、クラブ活動の運営団体となることが決まった。

しかし、現状のトリムクラブは会員数が延べ265名。その7割近くは50歳以上の高齢者が占めており、クラブでの活動も高齢者向けの教室がほとんどであり、中学生向けの活動はない。

今後はクラブ内に中学校の部活動を運営できる組織および人員の配置が急務である。

本市では、国が示す通り、令和5年度から

令和7年度末の改革推進期間に、まずは、休日の部活動の地域移行を完了することを目標に、移行の準備と受け皿となるクラブの体制づくりを進めている。

令和5年度には8つ、令和6年度には6つ、令和7年度には6つの部活動の地域移行を行い、令和7年度中にすべての移行を完了する。

今後、本市では部活動の地域移行を踏まえた、地域での持続可能で多様な活動を行えるよう、クラブ内の盤石な基盤づくりと地域全体を巻きこんだ地域のネットワークづくりを考えている。



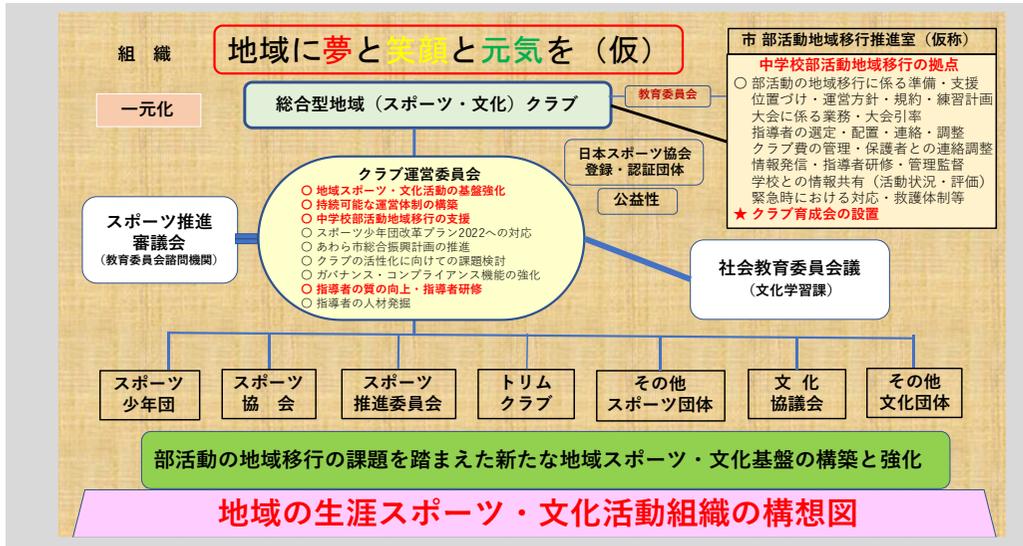
【課題】

- ① 持続的な財源の確保
- ② 教育的視点を持った指導者の育成
- ③ 部活動の地域移行を踏まえた地域のコミュニティの創出

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

- ・スポーツ課・・・部活動改革の主幹、学校配置コーディネーターとの調整・連携
指導者の労務管理・コーディネーターの労務管理・クラブ備品の調達・管理、関係者へのアンケートと調査・体験会の企画

◎首長部局

- ・財政課・・・予算措置

年間の事業スケジュール

令和6年3月	第1回 指導者研修会
令和6年4月	第1回 育成会代表者会
令和6年5月	第1回 各クラブ育成会会議
令和6年6月	第2回 育成会代表者会
令和6年7月	第2回 指導者研修会
令和6年8月	第2回 各クラブ育成会会議
令和6年10月	第1回 クラブ運営委員会
令和6年11月	第3回 育成会代表者会
令和6年12月	クラブ会員アンケート調査
令和7年 1月	クラブ説明会 児童・保護者
令和7年 2月	第2回 クラブ運営委員会 クラブ体験会
令和7年 3月	第3回 指導者研修会

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	2校	実施した地域クラブ総数	13クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		13クラブ（14部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		0クラブ
全体の指導者数	26人	全体の運営スタッフ数	5人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
あわらトリムクラブ	総合型地域スポーツクラブ	R5移行① あわら剣道	月4回/ 週1回程度	休日 午前または午後	1年 13名 2年 14名 3年 7名	4月から 翌年3月	市民武道館	2人	2人	年会費 10,000円	中体連：部活動 その他：地域クラブ
あわらトリムクラブ	総合型地域スポーツクラブ	R5移行② あわら女子バスケットボール	月4回/ 週1回程度	休日 午前または午後	1年 7名 2年 8名 3年 3名	4月から 翌年3月	金津中学校	2人	2人	徴収なし	中体連：部活動 その他：地域クラブ
あわらトリムクラブ	総合型地域スポーツクラブ	R5移行③ 金津女子ソフトボール	月4回/ 週1回程度	休日 午前または午後	1年 4名 2年 4名 3年 4名	4月から 翌年3月	金津中学校	2人	2人	月会費 1,000円	中体連：部活動 その他：地域クラブ

③その他、体験会やイベント等の開催実績

- 令和6年12月 小学校6年生保護者対象 地域クラブ説明会実施
 - 令和7年2月～3月上旬 地域クラブ体験会実施
- 令和7年1月 市内7小学校児童対象 地域クラブ説明会実施

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

②各クラブに関すること

	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
あわらトリムクラブ	総合型地域スポーツクラブ	R5移行④ AWARA 陸上	月 4 回/ 週 1 回程度	休日 午前または午後	1年 9名 2年 4名 3年 1名	4月から 翌年3月	三国運動公園陸上競技場	2人	2人	必要に応じて徴収	中体連：部活動 その他：地域クラブ
あわらトリムクラブ	総合型地域スポーツクラブ	R5移行⑤ 新体操	月 4 回/ 週 1 回程度	休日 午前または午後	1年 0名 2年 0名 3年 1名	4月から 翌年3月	金津中学校	2人	2人	回数に応じて 1,000円～ 3,000円	中体連：部活動 その他：地域クラブ
あわらトリムクラブ	総合型地域スポーツクラブ	R5移行⑥ 卓球	月 4 回/ 週 1 回程度	休日 午前または午後	1年 3名 2年 0名 3年 2名	4月から 翌年3月	B&G 体育館	2人	2人	その都度、 必要に応じて 集金	中体連：部活動 その他：地域クラブ
あわらトリムクラブ	総合型地域スポーツクラブ	R5移行⑦ 芦原バドミントン	月 4 回/ 週 1 回程度	休日 午前または午後	1年 12名 2年 12名 3年 7名	4月から 翌年3月	芦原中学校	2人	2人	その都度、 必要に応じて 集金	中体連：部活動 その他：地域クラブ
あわらトリムクラブ	総合型地域スポーツクラブ	R6 移行⑧ 金津男子バドミントン	月 4 回/ 週 1 回程度	休日 午前または午後	1年 8名 2年 7名 3年 7名	4月から 翌年3月	B&G 体育館	2人	2人	月会費 4,000円 シャトル代	中体連：部活動 その他：地域クラブ

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

②各クラブに関すること

	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
あわらトリムクラブ	総合型地域スポーツクラブ	R6移行⑨ 芦原女子バレーボール	月 4 回/ 週 1 回程度	休日 午前または午後	1年 6名 2年 9名 3年 2名	4月から 翌年3月	芦原中学校	2人	2人	1,000円 後は必要に応じて集金	中体連：部活動 その他：地域クラブ
あわらトリムクラブ	総合型地域スポーツクラブ	R6移行⑩ 芦原男子バスケットボール	月 4 回/ 週 1 回程度	休日 午前または午後	1年 5名 2年 6名 3年 8名	4月から 翌年3月	芦原中学校	2人	2人	前期 5,000円 後期 5,000円	中体連：部活動 その他：地域クラブ
あわらトリムクラブ	総合型地域スポーツクラブ	R6移行⑪ 芦原サッカー	月 4 回/ 週 1 回程度	休日 午前または午後	1年 5名 2年 2名 3年 7名	4月から 翌年3月	芦原中学校	2人	2人	年間 10,000円程度	中体連：部活動 その他：地域クラブ
あわらトリムクラブ	総合型地域スポーツクラブ	R6移⑫ 金津男子ソフトテニス	月 4 回/ 週 1 回程度	休日 午前または午後	1年 8名 2年 8名 3年 14名	4月から 翌年3月	金津中学校	2人	2人	特になし	中体連：部活動 その他：地域クラブ
あわらトリムクラブ	総合型地域スポーツクラブ	R6移行⑬ 金津女子ソフトテニス	月 4 回/ 週 1 回程度	休日 午前または午後	1年 9名 2年 11名 3年 13名	4月から 翌年3月	金津中学校 トリムパークかなづ	2人	2人	1,000円 後は必要に応じて集金	中体連：部活動 その他：地域クラブ

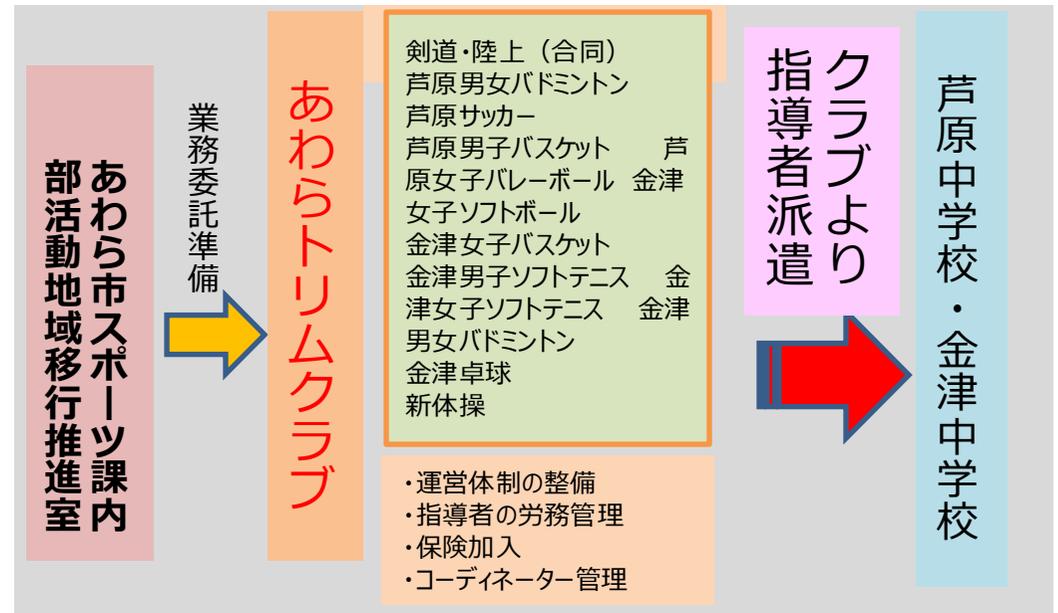
2.実証内容と成果

主な取組例

●あわらトリムクラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	剣道・陸上・サッカー・男子バスケット・卓球 女子バスケットボール・女子ソフトボール・ 男女ソフトテニス・女子バレーボール 新体操・男女バドミントン
運営団体名	あわらトリムクラブ
期間と日数	令和6年4月～令和7年3月まで 月4回程度 年間指導上限45回
指導者の主な属性	あわらトリムクラブ契約のインストラクター
活動場所	芦原中学校・金津中学校 トレーニングセンター・B&G体育館 市民武道館・トリムパークかなづ等
主な移動手段	保護者送迎
1人あたりの参加会費等(年額)	クラブとしての会費 令和8年度より徴収 現在は各クラブで必要経費を徴収
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●運営体制図(地域クラブ活動を実施する際の運営体制図)



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

記入例：

●統括責任者

役割：クラブ管理者として、指導者、育成会、学校との連絡調整を行う。

●メイン指導者 1名

役割：練習計画・活動指導・安全・健康管理・育成会との連絡調整を行う。

●クラブサポーター 1名

役割：主の指導者の補助および緊急時の対応を行う。(複数体制で指導)

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

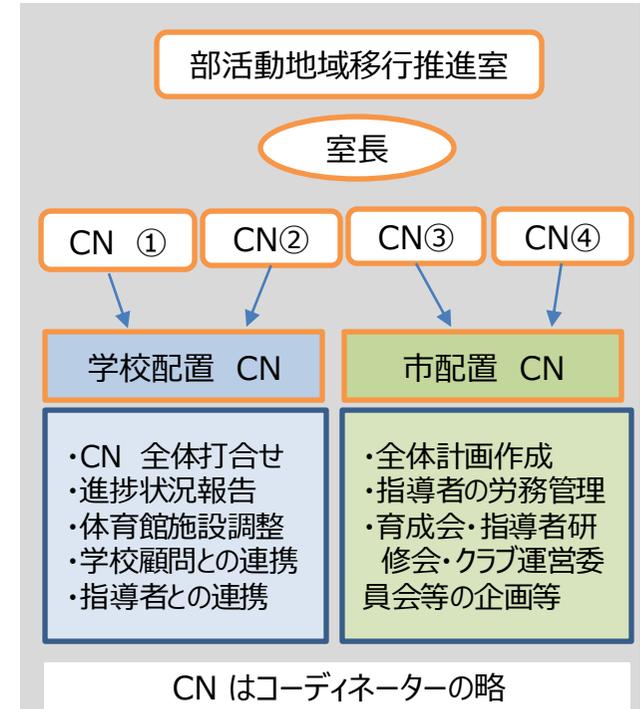
取組事項

●市のスポーツ課内に部活動地域移行推進室を設置し、地域移行を加速させた。

- ①コーディネーターを4名配置
- ②クラブ育成会の開催
子供をサポートする保護者会
- ③指導者研修会
質の向上と危機管理の研修
- ④クラブ運営委員会
部活動の地域移行を踏まえた市の持続可能なスポーツ・文化活動基盤づくりの会

取組の成果

●学校にコーディネーターを配置し、学校、部活動顧問、クラブ指導者との調整、体育館の使用割り振りを行うことでクラブがスムーズに運営できた。クラブ加入生徒へのアンケートでは、クラブ員の8割以上がクラブに満足と回答。その理由として、専門の指導者に分かりやすく丁寧な指導が受けられることや、複数の指導者で教えてもらえる、他校の生徒やOB・OGと交流ができる（合同クラブ）などの声が聞かれた。また、休日学校部活動を離れた教員からは、専門の指導者から平日の練習メニューを教えてもらえありがたい、指導が分かりやすい、自分の生活にも余裕がもてるようになった、休日に教材づくりができるなど、教育の質の向上につながるような意見が多く聞かれた。



コーディネーターの具体的な動きの実績

- ①休日の地域クラブ実施に向けてのクラブ指導者との連絡調整
- ②休日の学校体育館使用割り当て（学校部活動との調整）
- ③休日の地域クラブ活動の巡視および指導者への助言、課題把握
- ④部活動地域移行推進室打合せ会（毎週月曜日）

今後の課題と対応方針

●令和7年夏には、20の学校部活動の完全移行が完了予定である。現在は、市のスポーツ課内に部活動の地域移行推進室を設けて移行業務を行ってきたが、次年度からは、順次、受け皿となる市の総合型地域スポーツクラブに職員を派遣し、本格的にクラブ運営を行ってきたい。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保①

取組事項

① 令和5年度より、市にあるスポーツ団体・文化協議会に指導者の推薦を依頼。また、団体から代表者1名を推薦してもらい、今後のクラブのあり方を検討した。

② 指導者研修会 年3回開催。
指導方針の確認や安全管理・ハラメント・生徒理解の研修に参加。

人材バンクの人数

0名

人材バンクの年齢構成

10代	0名
20代	0名
30代	0名
40代	0名
50代	0名
60代以上	0名

登録者属性

指導者の職業内訳

・会社員	16名
・退職教員	2名
・兼職兼業教員	3名
・兼職兼業市職員	3名
・無職	2名
市スポーツ協会からの推薦者や学校推薦等。	

種目

・剣道	・陸上
・卓球	・新体操
・女子バスケットボール	
・女子ソフトボール	
・女子バレーボール	
・男女バドミントン	
・男女ソフトテニス	
・サッカー	

資格有無

◆主の指導者
13名中11名が取得
日本スポーツ協会
コーチ1
JBA公認コーチ
日本サッカー協会
■サポーター
13名中4名が取得
日本スポーツ協会
コーチ1
JBA公認コーチ 等

取組の成果

●本市では生徒のレベルに応じた指導や緊急時を想定した対応の必要性から、複数でクラブを指導している。クラブでの雇用（謝金あり）は2人であるが、クラブによっては育成会（保護者）が練習のサポートをしているクラブも出てきている。クラブには活動する子どもたちを支える育成会があり、会には、代表者（会長・副会長・会計）を置き、会の運営を支えている。今年度の代表者が集まったのグループ毎の情報交換会では、保護者が積極的にクラブに関わっていく中で、「子どもたちの成長を見るのが楽しくなってきた。」「他のクラブの状況を聞いて、うちのクラブも頑張りたい。」など、保護者の建設的な声を聞くことができた。



クラブ育成会 グループでの情報交換会の様子

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保②

指導者研修の内容

【指導者研修会①】

- ・対象 モデルとなっているクラブの指導者 13名対象
- ・目的 ① 令和6年度実践内容の共有、アンケート結果の報告
② クラブの運営方針について共通理解
- ・工夫 生徒・保護者・指導者・学校顧問の意見をクラブに反映した。

【指導者研修②】

- ・対象 モデルとなっているクラブの指導者・サポーター 26名
- ・目的 危機管理（緊急時の対応 AEDの使い方）
- ・工夫 市の消防署の協力のもと、指導者に実技研修を行った。

【指導者研修③】

- ・県主催の地域クラブ指導者講習会に参加。

指導者研修の参加実績

- ・開催日：3月15日（7月22日・23日）（9月7日・10月6日）
 - ・開催回数：年3回 参加実績数：延べ71名
- 本市では教育委員会指導者認定制度を試験的に実施しており、その条件として、①市が定める指導者研修会 ②資質向上研修（コーチング） ③生徒指導・生徒理解研修 ④安全管理研修 を受講することを条件として、教育委員会公認の指導者認定証を発行している。

受講者の声



【参加した地域クラブ指導者の声】

- ① AEDの実技講習会を受けて
今後、クラブ中、いつ生徒が倒れるかわからないので、このような実技を伴う研修があるのは大変ありがたい。
- ② 指導者の資質向上研修（県の指導者研修会参加）
テーマ「生徒が安心してのびのびと活動を楽しむために」
指導者の暴言・暴力の根絶、ジュニア期の指導者の影響力、応急手当、コーチングで大切なことなどを学んだ。

今後の課題と対応方針

- 安全管理研修（AED）を終え、指導者から体育館で行うクラブはどれもAEDが設置されているが、外で活動するクラブはない。緊急時、どう対応すればいいのかとの話が出た。市と交渉し、次年度、外で活動するクラブ用のAEDを設置することにした。
- クラブ指導にあたっては、日本スポーツ協会の資格等を取得することが望ましいが、現状で中では市の研修会をより充実したものにしていきたい。

2.実証内容と成果①

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等①

取組事項

○本市では、令和5年度から令和7年度の3年間で休日の地域移行を完了する計画である。移行期の3年間は公平性を保つため会費の徴収は行っていない。令和8年度からの受益者負担額の設定について検討を行った。受益者負担の対象としては、指導者謝礼、保険料、事務局人件費などのクラブ運営費とし、経費の合計額と受益者負担の差額をクラブ自主財源や市の支援など公的資金を活用することとした。

地域クラブに係る経費

■イニシャルコストの分析

※既存クラブの機器等をそのまま活用し、新たに導入するものについては、市が支援を行う。

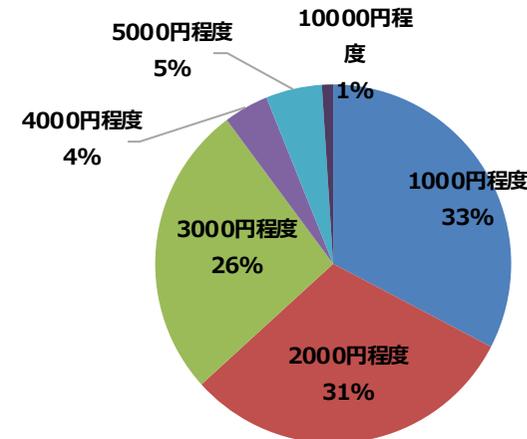
■ランニングコストの分析

- ・指導者謝金（10,000千円）
- ・指導者保険料（100千円）
- ・事務局人件費＋事務経費等（6,500千円）

持続的な運営に必要な受益者負担額の試算

持続的な運営に必要な受益者負担額の試算を行った。
(検証結果の詳細は次ページ参照)

収支バランス



保護者に過度な負担とならないよう、アンケート結果を参考とするとともに市の支援などの公的資金とのバランスを考慮した。

受益者負担額（月額）に関する保護者アンケート

2.実証内容と成果②

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等②

取組の成果

○本市は、総合型地域スポーツクラブが中学校部活動の受け皿となることから、現在のクラブでの会費や受講料（指導者への謝金）等との整合性を検証しながら諸経費を決める必要がある。

現段階で明確な結論は見えていないが、概ねの構想としては、

- ①クラブの年会費（受益者負担 一人、1,500円）
 クラブを運営するための人件費や事務経費等に充てる見込み。
- ②スポーツ保険加入費（受益者負担 一人、800円）
- ③受講料（受益者負担 月2,000円）

今後の課題と対応方針

○中学校の部活動の地域移行を踏まえた地域での持続可能で安定したクラブを運営していくためには、盤石な組織および運営スタッフの雇用が必要となる。特に今後、運営スタッフの人件費が大きな課題となる。保護者に運営スタッフの人件費を含めての会費の徴収となると、年間4万円～5万円の会費を徴収しなければならず、そうなるとクラブへの参加者はいなくなる。

また、現在は、市のコーディネーターがクラブの事務支援にあたっているが、将来的にはクラブに正規の職員を配置し、職員が生計を立てられるだけの収入を保障する必要がある。持続可能な運営を行うためには、施設の指定管理受託など自己財源の拡大とともに恒久的な国・県の財政支援が不可欠であると考え、今後クラブとしてどのように事業収入を生み出していくかを令和7年度に検討していきたい。

R6.7.18運営委員会資料															
令和8年度以降の休日のクラブ会費について															
◎会費の考え方	①全種目共通の費用 ⇒ 年会費や受講料（保険料別途） ②種目ごとに異なる費用 ⇒ 種目ごとの会費														
◎休日のクラブ会員（仮定）	400人	（参考）R5運動部+吹奏楽部 459人													
◎想定される費用	①全種目共通の費用														
	（内訳）														
あわらトリムクラブ運営費用	6,500,000円	人件費2人分+事務経費等													
指導者謝金	10,000,000円	21種目、2人、年50回													
指導者保険料	100,000円														
合計	16,600,000円														
◎1人あたりの会費															
年会費	41,500円														
月会費	3,458円														
受講料の場合 1回あたり	830円														
（参考：現ジュニア会員 年1,500円+1回500円～700円）															
◎考察	アンケート結果によると月2,000円程度が妥当・・・会費収入は960万円 「①の費用」と「会費収入」の差額=700万円をどのように確保していくか・・・今後の課題														
[R5.7月 モデル部活動保護者アンケート抜粋]															
Q8 休日の部活動が地域クラブ（あわらトリムクラブ）に移行した場合、会費を徴収することになりますが、生徒一人あたりの月の会費（指導者への謝礼やクラブの維持・管理・運営費等を含む）はどれくらいが適正だと思われますか。（遠征費や練習着・練習に使う個人の用具等にかかる費用は含めない） ※練習回数は月4～5回程度を想定															
<table border="1"> <caption>Q8 休日の部活動が地域クラブに移行した場合の会費に関するアンケート結果</caption> <thead> <tr> <th>会費額</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1000円</td> <td>33%</td> </tr> <tr> <td>2000円</td> <td>31%</td> </tr> <tr> <td>3000円</td> <td>26%</td> </tr> <tr> <td>4000円</td> <td>5%</td> </tr> <tr> <td>5000円</td> <td>4%</td> </tr> </tbody> </table>				会費額	割合	1000円	33%	2000円	31%	3000円	26%	4000円	5%	5000円	4%
会費額	割合														
1000円	33%														
2000円	31%														
3000円	26%														
4000円	5%														
5000円	4%														

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

取組事項

●本市では市内にある2つの中学校の部活動をすべて、総合型地域スポーツクラブが運営を担うことになっている。そのため生徒の活動拠点も両中学校の体育館・グラウンドが主となる。現在、休日に学校の先生が指導

しないことを想定して、両中学校のコーディネーターが、休日の体育館およびグラウンドの使用割り当てを行っている。現在は学校部活動と地域クラブが共存しており、その調整もコーディネーターが行っている。

取組の成果

- コーディネーターが学校との調整役となり指導者・部活動顧問と相談の上、体育館・グラウンドの使用を調整しているため、活動がスムーズに行われている。
- 現在、休日の部活動の計画については、学校顧問と連携し、学校の月練習計画の中に休日の地域クラブの予定も入れて生徒に配布している。
- 部活動地域移行推進室と両中学校がネットワークで繋がっており、情報の共有がスムーズに行われている。

時間	12月1日 (日曜日)				12月7日 (土曜日)				12月8日 (日曜日)				12月14日 (土曜日)				12月15日 (日曜日)			
	08:00	09:00	10:00	11:00	08:00	09:00	10:00	11:00	08:00	09:00	10:00	11:00	08:00	09:00	10:00	11:00	08:00	09:00	10:00	11:00
7:30																				
8:00	A W A R A 陸上																			
8:30																				
9:00																				
9:30																				
10:00																				
10:30																				
11:00																				
11:30																				
12:00																				
12:30																				
13:00																				
13:30																				
14:00																				
14:30																				
15:00																				
15:30																				
16:00																				
16:30																				
17:00																				
17:30																				
18:00																				

今後の課題と対応方針

・ 現在はコーディネーターが学校の中で、クラブ指導者・学校顧問と連携を取りながら使用場所の割り振りを行っている。今後、完全移行になった場合、クラブ独自で活動場所の割り振りをする必要がある。

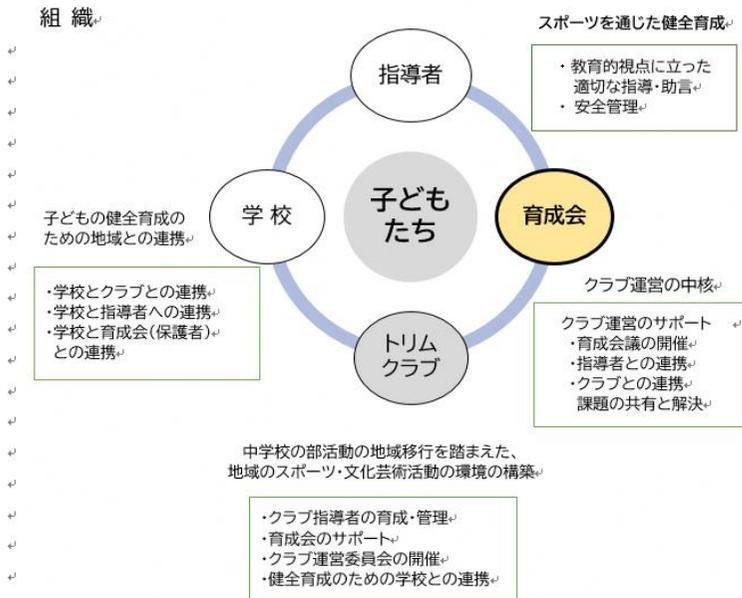
また、現在の課題は練習試合の機会の確保である。これまで練習試合は学校顧問が他校と練習試合の日程調整を行ってきたが、完全移行後はどのように行っていくかの検討が必要である。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

令和4年度から始まった部活動の地域移行も令和7年度の秋には両中学校とともに完全移行の目途は立った。特に本市で力を入れて取り組んだ点としては、持続可能でしっかりとした組織をつくり、安定した運営を行っていくことである。そのため、下記のような組織のもと運営を行っていくことの周知徹底を図り、地域クラブの子供たちをしっかりとサポートしていきたい。

地域の子どもたちは、学校を含めた地域で育てる



●成果の評価

本市では令和4年度、市に「部活動の地域移行に係わる検討委員会」を立ち上げ検討を進め、方向性を「提言」としてまとめているため、地域移行を進めやすかった。特に提言の中では、

- ①総合型地域スポーツクラブを中学校の部活動の受け皿とする。
 - ②受け皿としての体制を強化するため、財政支援及び必要な人員を確保する。
 - ③誰もがスポーツ・文化活動に親しむ環境整備に向けて、あわらトリムクラブ内に運営委員会を設置する。
 - ④令和7年度末までの休日の部活動移行をめざし、市の推進室の強化を図る。
 - ⑤各中学校にコーディネーターを配置し、市と中学校との連携を強化する。
- 提言後、市に地域移行推進室を設置し、着実に実行しているため、スムーズに進んだ。

●今後に向けて

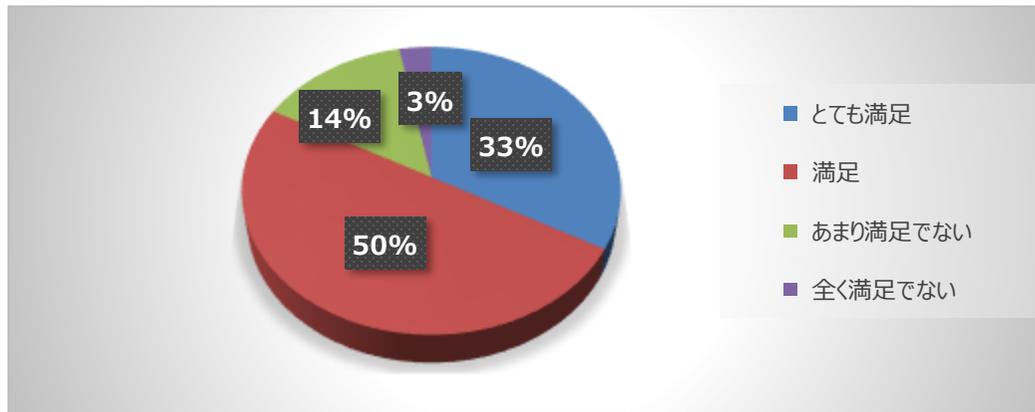
令和5年度から進めてきた休日の部活動の地域移行は、何とか令和7年度中の完全移行の目途が立った。しかしながら、多くの課題を抱えている。特に、指導者の安定的な確保や会費の保護者負担、何より、クラブの備品等を購入できる費用がほとんどなく、今後合同クラブになった場合のユニフォーム代や大会参加にかかる費用、消耗品の購入など、財源をどうするのか等、解決が難しい課題が多い。

令和7年度から本市では平日も含めて移行の準備と、受け皿である総合型スポーツクラブ内の体制と環境の整備に力を入れていきたい。

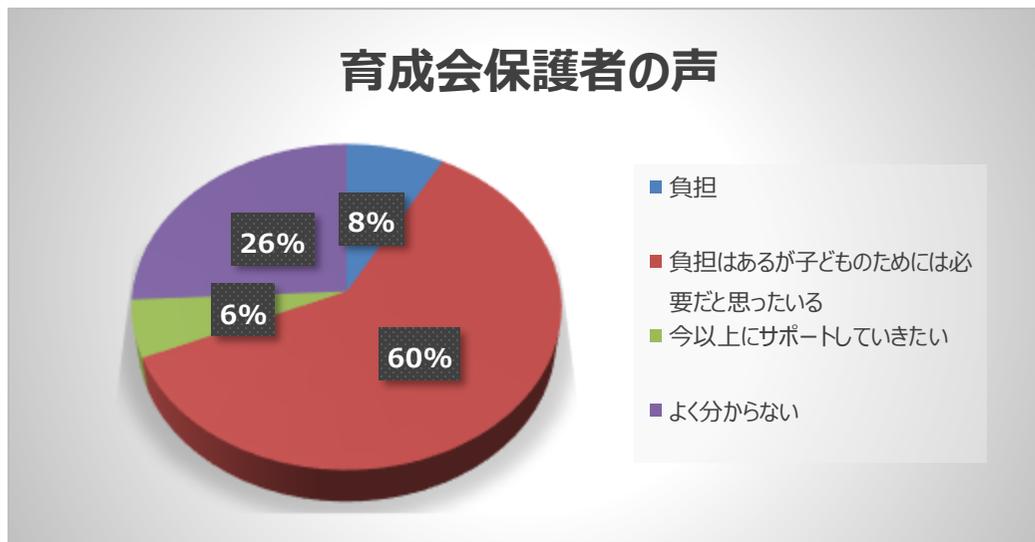
アンケート結果・参加者の声

●アンケート結果

地域クラブ参加生徒への調査



育成会保護者の声



●参加者の声

中学生 とても満足 33% 満足 50%

全体の83%が地域クラブにとても満足・または満足と回答。その理由としては専門の指導者が分かりやすく教えてくれる。複数の指導者に教えてもらえる。他校の生徒やOB・OGと交流ができる等であった。

中学生 あまり満足でない 全く満足でない 17%

全体の17%が地域クラブにあまり満足でない・全く満足でないと回答。その理由の中には、**指導者の威圧的な言葉や傷つく言葉等も声**も寄せられた。今後の指導者研修会で情報の共有をしていきたい。

育成会（サポーター）の声

負担はあるが子どもたちのためには必要の回答が60%。中には、今以上にサポートしていきたいとの回答が6%あった。**負担と感じている保護者も8%**いるので、今後は保護者の理解も得つつ、負担にならないサポート体制を考えたい。

モデルとなっている部活動の顧問の声

教員の休日が確保された。休日を休日らしく過ごせる。プライベートな時間が増えた。精神的なゆとりが感じられるようになった。家族との時間を大切にすることができた。専門的な指導が受けられてありがたい等の声が寄せられた。

2.実証内容と成果③

アンケート結果・広報資料

今年度は地域移行説明の対象を小学校6年生の児童・保護者に拡大し、校区にある7つの小学校の児童・保護者を対象に、下記のチラシをもとに説明会を実施した。また、2月から3月にかけては実際に地域クラブの体験会を実施し、児童に直接、興味のある種目を複数種目体験してもら

い、中学校入学後の地域クラブ加入がスムーズに行えるよう工夫した。また、体験会には推進室の職員・コーディネーターが付き添い、保護者会からの質問に答えるようにした。



部活動が変わる!
休日の部活動の地域移行が進んでいます!!

あわら市では、休日(土日、祝日)の中学校の部活動を、「地域クラブ活動」に移し、自分に合った活動を選び、自由に参加できる仕組みを作っています。この仕組みを「休日の部活動の地域移行」といいます。

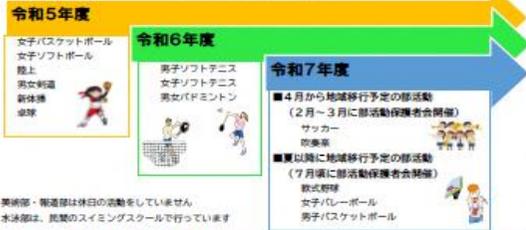
Q なぜ休日の部活動を地域移行するのですか?

- A 全国各地で生徒数が減り、野球部やサッカー部、ソフトボール部などでチームを作るのが難しい学校が出てきています。また、やりたい部活動がなかったり、競技に専門性のある教員が不足したりしています。そこで、いろいろな競技や文化・芸術活動、様々な体験ができる機会を確保するために、近くの学校同士や地域のクラブが協力して活動の機会を作ろうとしています。

Q 地域移行はいつから始まりますか?

- A あわら市では、令和5年度から、あわら市内の総合型地域スポーツクラブ「あわらトリムクラブ」が「部活動の受け皿」になり、休日の部活動の地域移行を始めています。金津中学校では、下の図のように、令和5年度に6部、令和6年度に3部、令和7年度中に5部、残り5つの部も地域移行を進めます。

■金津中学校の地域移行状況



令和5年度
女子バスケットボール
女子ソフトボール
陸上
男女剣道
新体操
卓球

令和6年度
男子ソフトテニス
女子ソフトテニス
男女バドミントン

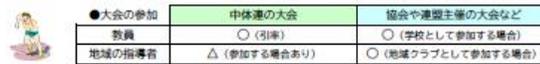
令和7年度
男子サッカー
女子サッカー
男子バレーボール
女子バレーボール
男子バスケットボール

美術部・報道部は休日の活動をしていません
水泳部は、従来のスイミングスクールで行っています

Q 指導者はどのような方ですか?

- A それぞれの競技を専門的にやっていた方をお願いしています。各クラブに複数の指導者を配置するとともに、部活動顧問と十分に連携をとり、継続的でより幅広い指導を受けることができるようにしています。教員が本人の希望で、本来の業務に支障のない範囲でクラブ指導者として参加する場合があります。指導者には、AED講習などの救命講習や安全講習、ハラスメント講習、コーチングなどの指導講習、クラブ運営講習などを受講してもらっています。

Q 部活動と地域クラブ活動はどう違いますか?



Q 全員が加入しないとダメですか?

- A そうではありません。平日と休日別の競技に入っても構いません。また、民間のクラブや習い事のために、あわらトリムクラブに入らないなど、自分の生活スタイルに合わせて加入を選択してください。現在は、ほとんどの生徒が部活動と地域クラブ活動の両方を行っています。

Q 保護者の負担はどうなりますか?

- A 大きく4点のご協力をお願いします。
 ① 休日の地域クラブ活動では、中学校の日本スポーツ振興センター災害共済が使えないので、新たにスポーツ安全保険(年800円)への加入をお願いします。
 ② 休日の活動には原則教員が参加しないので、地域クラブ活動を休む場合は、地域クラブ指導者に連絡をお願いします。
 ③ 令和8年度から休日の部活動地域移行完全実施になり、あわらトリムクラブの会費や経費(クラブ運営費・指導者謝金等)が発生します。金額は現在、あわら市教育委員会などで検討しています。
 ④ 競技ごとのクラブ育成会に協力し、お子様のサポートをお願いします。

Q 部活動は減くなりますか? 平日の部活動の地域移行はどうなりますか?

- A 部活動は当面は減りませんが、平日は部活動、休日は地域クラブ活動になります。また、平日の部活動の地域移行も、状況を見ながら準備を進めていきます。

■問合せ先
 ・あわら市教育委員会スポーツ課 0776-73-8043 担当・佐藤・土橋
 ・部活動地域移行推進室
 ・金津中学校 0776-73-0149 担当・水持

【地域クラブ体験日一覧】

【芦原中学校】

クラブ名	日時	活動場所	クラブ指導者	連絡先
1 男子バスケットボール	2/9(日) 8:00~9:00	芦原中学校体育館		
	3/9(日) 9:00~10:00			
2 男女バドミントン	2/8(土) 13:00~15:00	芦原中学校体育館		
	2/15(土)			
3 女子バレーボール	2/8(土) 10:30~12:30	芦原中学校体育館		
	3/8(土) 9:00~11:00			
4 リッカー	2/1(土) 8:30~10:20	芦原中学校体育館		
	2/8(土)			

【金津中学校】

クラブ名	日時	活動場所	クラブ指導者	連絡先
1 男子ソフトテニス	2/2(日) 8:30~10:30	金津中学校体育館		
	2/9(日) 10:30~12:30			
2 女子ソフトテニス	2/2(日) 10:30~12:30	金津中学校体育館		
	2/9(日) 8:30~10:30			
3 女子ソフトボール	2/1(土) 9:00~11:00	金津小学校体育館 小体育館で実施		
	2/8(土)			
4 女子バスケットボール	2/2(日) 14:30~16:30	金津中学校体育館		
	2/9(日)			
5 男女バドミントン	2/23(日) 9:00~11:00	B&G 体育館		
	3/1(土)			

【芦原中学校・金津中学校合同で活動しているクラブ】

クラブ名	日時	活動場所	クラブ指導者	連絡先
1 剣道(男女)	2/8(土) 9:00~11:00	あわら市民武道館 (芦原中学校前)		
	2/11(火)			
2 AWARA陸上(男女)	3/2(日) 三浦運動公園の場内	三浦運動公園 陸上競技場 雨天時:芦原中体育館 13:00~15:00		
	3/9(日) 9:00~11:00			
3 卓球(男女)	2/2(日) 9:00~11:00	B&G体育館		
	2/16(日)			

【生徒への参加啓発チラシ】

2.実証内容と成果④

参考資料（活動写真）



【芦原女子バレー練習試合】



【金津ソフトテニス練習風景】



【AWARA陸上 練習風景】



【金津バドミントン練習風景】

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和4年

協議会設置、
検討開始

受け皿の決定
提言書作成
モデルクラブの選定
学校への説明

令和5年

モデルでの実践育
成会設置
クラブ運営委員会
の立ち上げ

生徒・保護者へ
の説明
育成会規約の検討
課題の洗い出し

令和6年

モデルクラブの拡大
育成会議
クラブ運営委員会
指導者研修会開催

令和7年

休日の部活動の
移行完了
地域クラブの体制
整備

- **ステークホルダー**
市スポーツ団体・文化団体・学校関係者・学識経験者・クラブ指導者等
- **経過**
・年間5回の検討会を実施。
市の総合型クラブを受け皿とすることを決定。
- **実施にあたって生じた課題**
・現在の総合型クラブの現状からは受け皿となるのが厳しい実態。
- **実施内容、工夫した点等**
・部活動の地域移行の検討会であるが、テーマを「部活動の地域移行を踏まえた、地域のスポーツ・文化活動の基盤の構築とした点。

- **ステークホルダー**
指導者・保護者・クラブ関係者・学校
- **経過**
モデル事業スタート。育成会設立、育成会開催。クラブ運営委員会の開催。指導者の選定。指導者研修
- **実施にあたって生じた課題**
・危機管理上の指導者数の問題
・育成会組織の役割・活動内容
・学校部活動とクラブとの施設使用の割り当ての問題
- **実施内容、工夫した点等**
・令和6年度より2人体制で指導
・保護者への見守り要請
・育成会でのサポート体制の明確化

- **ステークホルダー**
指導者・保護者・クラブ指導者・学校
- **経過**
・モデルクラブ数の拡大
・各クラブ育成会の開催
・指導者研修会の充実
- **実施にあたって生じた課題**
・モデル拡大に伴う、指導者の確保
・育成会の運営の在り方
・クラブ運営委員会組織の刷新
- **実施内容、工夫した点等**
・育成会代表者会の開催
育成会研修会
・指導者認定制度の導入
・クラブ運営委員会の刷新

令和7年内
休日の学校部活動の
完全移行完了予定
のクラブへの

3. 今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

部活動 平日・休日完全地域移行に向けてのスケジュール

R6.2



芦原中学校				芦原中学校				完全移行・休日の完了
1	バドミントン	1	サッカー	1	女子ソフトボー	1	男子バスケット	
2	剣道(合同)	2	女子バレー	2	軟式野球	2	吹奏楽	
		3	男子バスケット	③	吹奏楽	3	女子バレー	
				4	(剣道 合同)	4		
※候補種目 平日の予算の見通しが立てば移行可能								
金津中学校				金津中学校				
1	女子ソフトボール	1	男子ソフトテニス	①	サッカー	1	バドミントン	
2	女子バスケット	2	女子ソフトテニス	2	男子バスケット	2	女子バスケット	
3	剣道(合同)	3	バドミントン	3	女子バレー	3	卓球	
4	新体操			4	軟式野球	4	(新体操)	
5	卓球	※R7休部予定		⑤	吹奏楽		(AWARA陸上合同)	
				○目処あり		※候補種目 平日の予算の見通しが立てば移行可能		

★ 剣道・AWARA陸上については両中学校合同なので、輸送の問題がある。

6 AWARA陸上 ※芦原中は学校外のクラブ、金津中は準部活動 芦原中・金津中合同のクラブ

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

福井県 越前市

自治体名：福井県 越前市

担当課名：教育委員会 学校教育課

電話番号：0778-22-3127

基本情報

面積	230.70 km ²
人口	80,395 人
公立中学校数	8 校
公立中学校生徒数	2,072 人
部活動数	78 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	策定済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

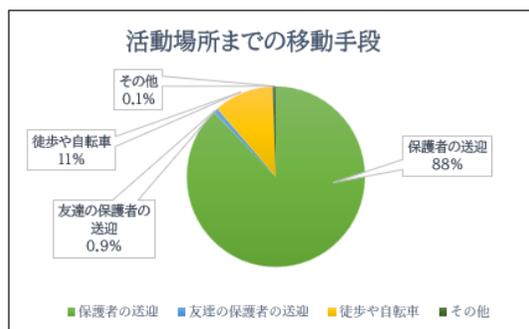
地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

現在、当市の運動部活動は、軟式野球部、男女バスケットボール部、男女バレーボール部、男女ソフトテニス部、剣道部、サッカー部、バドミントン部、陸上部が活動している。

少子化に伴い、各中学校の部員数が不足し部を休止せざるをえない状況も生じてきている。剣道部は、少数の部員数となり、団体戦への出場ができない場合も生じてきている。今後も、越前市の中学校の生徒数の減少が続くことが想定されており、昨今の出生者数を見ると、学校以外で子どもたちが地域でスポーツに親しむ機会を確保することが必要となっており、当市においても、中学校における部活動のあり方を検討している。

改革推進期間である3年間で、少子化の中でも将来にわたり、当市の子どもたちがスポーツに継続して親しむ機会を確保するため、地域クラブ活動を整備している。

課題としては、会場の確保、指導者の確保、運営の方法などがある。令和5年度には、ソフトテニスと剣道の「地域クラブ活動」を開始し、運営の方法について、実証を重ねてきた。令和6年度は、他の種目にも、事業を拡大し、課題の解決に取り組んでいる。また、会場の確保については、学校を優先的に使用することにより、目途がついているが、遠距離になる会場への送迎については、課題が残っている状況である。



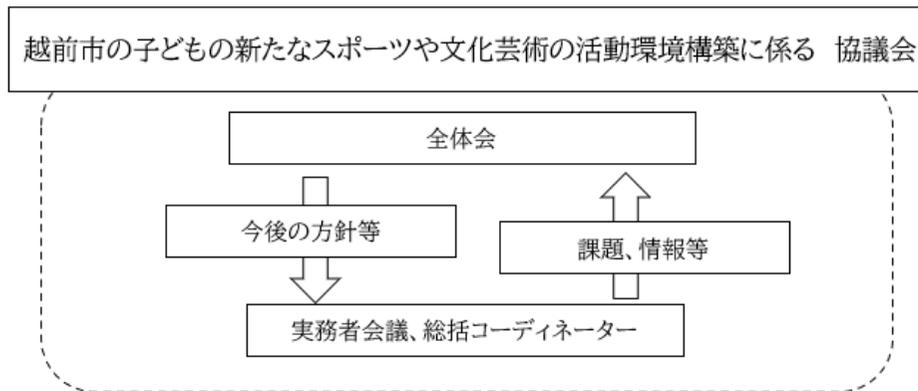
●課題

送迎を保護者に頼っているため、会場が遠い場合の参加が困難になることがある。

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

- ・総括コーディネーターの配置による地域クラブ活動との連絡調整
- ・施設利用等に係る連絡調整
- ・学校と総括コーディネーターとの部活動と地域クラブ活動との連絡調整

◎首長部局

- ・予算編成
- ・交通アクセスの協議

年間の事業スケジュール

令和6年

4月 第1回実務者連絡会

7月 第1回協議会

競技団体向け説明会

8月 第2回実務者連絡会

9月 各種目運営会議

後期説明会（保護者）

10月 第3回実務者連絡会

後期説明会（生徒）

指導者研修会

12月 第2回協議会

第4回実務者連絡会

2月 第5回実務者連絡会

第3回協議会

次年度前期説明会

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	8校	実施した地域クラブ総数	10クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		0クラブ（0部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		10クラブ
全体の指導者数	107人	全体の運営スタッフ数	107人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目	実施回数	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
越前市地域クラブ（剣道）	民間	剣道	月 2回～3回	9時から 12時	3年 9人 2年 16人 1年 16人	4月から 3月	市武道館	26人	26人	年会費 800円	中体連：部活動・地域クラブ その他：部活動・地域クラブ
越前市地域クラブ（ソフトテニス）	民間	ソフトテニス	月 2回～3回	9時から 12時	3年 50人 2年 52人 1年 57人	4月から 3月	市東運動公園	17人	17人	年会費 800円	中体連：部活動 その他：部活動
越前市地域クラブ（柔道）	民間	柔道（新）	月 2回～3回	19時から 21時	3年 6人 2年 0人 1年 4人	4月から 3月	市武道館	3人	3人	年会費 800円	中体連：地域クラブ その他：地域クラブ

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

クラブ名	運営団体種別	種目	実施回数	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
越前市地域クラブ(卓球)	民間	卓球(新)	月2回~3回	9時から12時	3年 0人 2年 35人 1年 29人	10月から3月	武生二中	6人	6人	年会費800円	中体連:部活動 その他:部活動
越前市地域クラブ(バドミントン)	民間	バドミントン(新)	月2回~3回	9時から12時	3年 0人 2年 34人 1年 29人	10月から3月	武生一中	6人	6人	年会費800円	中体連:部活動 その他:部活動
越前市地域クラブ(陸上)	民間	陸上(新)	月2回~3回	9時から12時	3年 0人 2年 14人 1年 14人	10月から3月	東運動公園陸上競技場	10人	10人	年会費800円	中体連:部活動 その他:部活動
越前市地域クラブ(軟式野球)	民間	軟式野球(新)	月2回~3回	9時から12時	3年 0人 2年 23人 1年 35人	10月から3月	万葉中 武生一中	10人	10人	年会費800円	中体連:部活動 その他:部活動
越前市地域クラブ(サッカー)	民間	サッカー(新)	月2回~3回	9時から12時	3年 0人 2年 20人 1年 21人	10月から3月	南越中 武生三中	11人	11人	年会費800円	中体連:部活動 その他:部活動
越前市地域クラブ(バスケットボール)	民間	バスケットボール(新)	月2回~3回	13時から16時	3年 0人 2年 54人 1年 56人	4月から3月	万葉中 武生二中	17人	17人	年会費800円	中体連:部活動 その他:部活動
越前市地域クラブ(バレーボール)	民間	バレーボール(新)	月2回~3回	13時から16時	3年 0人 2年 34人 1年 37人	4月から3月	南越中 武生一中	3人	3人	年会費800円	中体連:部活動 その他:部活動

③その他、体験会やイベント等の開催実績

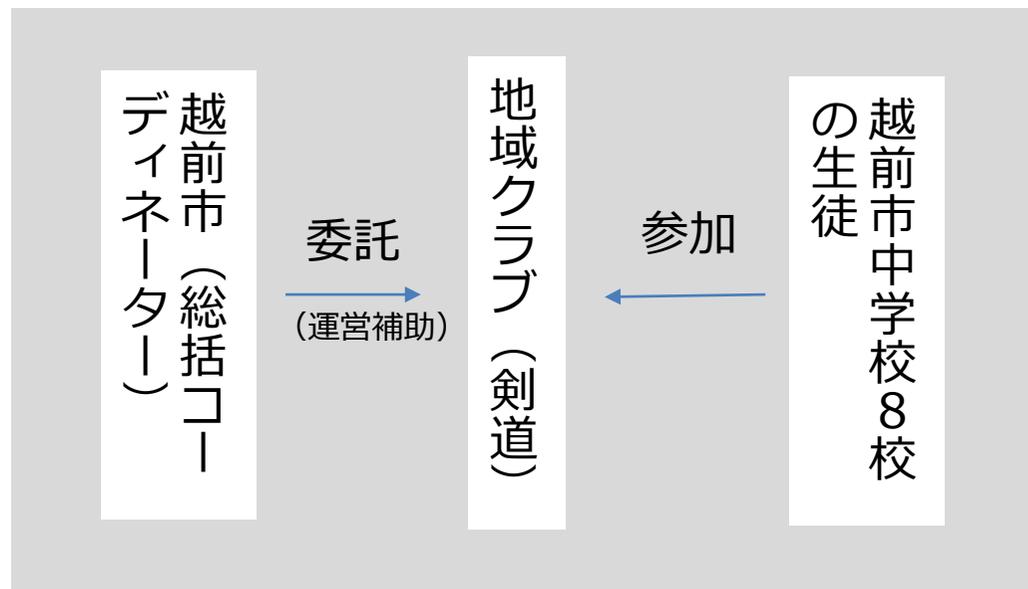
- なし

主な取組例

●越前市地域クラブ（剣道） 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	剣道
運営団体名	越前市剣道連盟
期間と日数	4月13日～3月8日 月2～3回程度
指導者の主な属性	中学校教員、剣道連盟所属の指導者
活動場所	越前市武道館
主な移動手段	保護者の送迎（車）
1人あたりの参加会費等（年額）	800円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

- 統括責任者 1人
役割：出欠の確認、安全確認、生徒の状況、指導内容の調整を行う
- 主任指導者 1人
役割：指導内容と指導方法の調整を行う
- 運営補助者 2人～4人（26人の登録からローテーションで参加）
役割：主任指導者の補助を行う

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

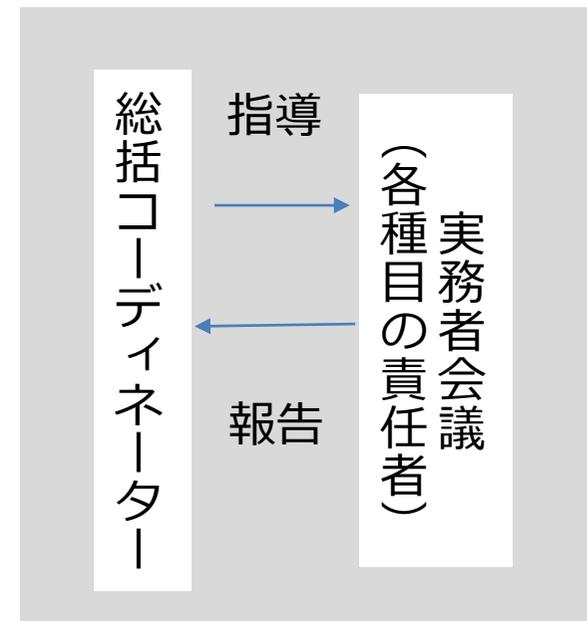
●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

- 教育委員会が、総括コーディネーター1名を配置し、運営団体の関係者との連絡調整・指導助言等を行う。
- 実務者会議を定期的に行う（令和6年度は、5回）し、実務者会議には、各運営団体の代表が1人が参加する。
- 実務者会議では、現状の報告、改善点などを話し合い、今後の方向性を決定する。

取組の成果

- 実務者会議を定期的に行ったり、総括コーディネーターが活動を巡回したりすることで、早めの活動計画の見直しや、指導者同士の連絡調整がうまくいった。
- 地域クラブ活動の共通目標を「できる楽しさを時間させる」とし、生徒に寄り添う指導や支援を行うことを地域クラブ活動の共通認識にしたことで、各団体とも着実な運営を行っている。
- 中学生と関わる地域の指導者が増加している。（令和5年度 40人 令和6年度 107人）
- 連絡や事務の軽減のため、Formsやホームページ活用を行っている。



コーディネーターの具体的な動きの実績

【総括コーディネーター】

- ・毎回、各地域クラブ活動を巡回し課題等のヒアリング・助言等を実施
- ・協議会の調整等を実施し、関係団体との連携に努め、学校、参加者、指導者への連絡調整を実施

今後の課題と対応方針

- ・生徒への連絡、生徒の出欠を把握することが運営団体の負担になっているので、出欠等のアプリを導入して、解決する方法を提案する。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保①

取組事項

- ・県が実施する指導者向け研修会への参加を促し、質を確保する。
- ・市の指導者研修会を10月に開催し、中学生の心理や安全の確保などについて、講義を受けた。
- ・市の地域クラブ活動の理念や方針を指導者研修会等で伝えた。
- ・総括コーディネーターが実務者会議（各地域クラブの運営代表者）を実施し、指導の工夫について支援する。
- ・総括コーディネーターが毎回、各地域クラブ活動の状況を巡回し、運営について、支援する。
- ・スポーツ少年団や競技団体との協議により、人材の発掘を推進する。

種目

- ・バレーボール
- ・バスケットボール
- ・サッカー
- ・バドミントン
- ・陸上
- ・卓球、軟式野球
- ・剣道、柔道
- ・ソフトテニス

資格有無

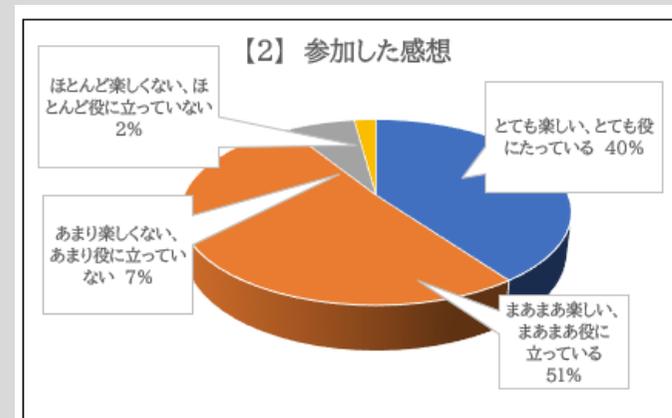
越前市の地域クラブ活動の理念や方針に賛同し、県又は市の指導者研修会を受講し、楽しい・できたを目標に指導を行い、生徒に寄り添う指導を行う方を指導者としている。

取組の成果

越前市の理念や方針を指導者に理解してもらい、指導者研修会等で生徒に寄り添う支援をお願いしていることで、参加者のアンケートによると、楽しい、役に立っていると回答する生徒の割合が、91%であり、高評価を得ている。次回も参加したいと考えている生徒が84%となっている。

総括コーディネーターの巡回により、活動内容や指導方法の見直しなど、早めの対応ができた。

総括コーディネーターが、競技団体や競技の関係者等と調整をおこない、人材発掘に努めた結果、107人の指導者を確保することができた。



2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



スポーツ庁

取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保②

指導者研修の内容

- ①指導者の心がまえ（生徒の気持ちを尊重する）
- ②パワハラ・セクハラ（恐怖で指導しない・相手を支配しない）
- ③越前市の地域クラブ活動について
 - ・楽しい、できたを目標とすること。
 - ・指導者がよき手本となること。
 - ・適切な指導をすること。（寄り添う指導、勇気づける指導）
 - ・生徒の主体性を高めること。（自己選択と自己決定の力）

指導者研修の参加実績

- ・開催日： 10月5日
 - ・開催回数： 1回
 - ・参加人数：51人
- 真剣に、講師の話に聞き入っていた。また、グループでの話し合いが5回、行われたが、積極的に課題について、取り組んでいた。その後も、前向きな発言が多く見られた。

受講者の声

- ・競技のテクニカルな指導だけではなく、生徒の成長に合わせた指導方法が大切だと分かった。
- ・自分が子どものころは、一方的に先生から教えられる指導を受けてきたが、手厚い指導を受けたほうが、子どもたちは上達するだろうと感じた。
- ・中学生の特性を生かして、指導内容を工夫する必要性を感じた。
- ・越前市の地域クラブ活動の理念や方針を知る機会になり、今後の指導に生かそうと思う。

今後の課題と対応方針

- ・実際の指導現場を想定すると、AEDに関する学習はできたが、AEDの使用法の研修がなかった。教員はAEDの使い方の研修などをしっかりと受けているが、それ以外の方も使えるように別の機会に研修を行う。
- ・指導者の質の向上のため、指導の資格について、今後、検討していくことが必要である。また、指導者資格への費用の補助についても、検討していく。
- ・競技団体やスポーツ少年団などの協議は、今後も継続して実施していくことが必要である。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



スポーツ庁

取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

- 学校と連携して進めていくため、中学校校長会やPTA連合会等において、今後の見通し等の説明を実施した。
- 各競技団体に、地域クラブ活動の理念や方針、今後の方向性について、説明会を7月に実施した。
- 指導者の派遣に関して、各競技団体に支援を要請した。

取組の成果

- 中学校校長会やPTA連合会等を訪問し、学校の協力を求めた。指導者の確保についても、お願いしている。市内中学校の全ての生徒に募集チラシの配布を行うだけでなく、各中学校において、生徒向け説明会（計8回）を10月に実施した。保護者向け説明会（計3回）を9月に実施した。その結果、令和6年度後期は、601人の参加があった。

今後の課題と対応方針

- 運営の効率化を図るため、アプリを活用した連絡方法を確立する。
- 保護者送迎の負担を軽減するため、市の他課と連携して、移動手段が確保できないかについて、検討する。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 エ：面的・広域的な取組

取組事項

- 令和6年度に、全ての運動部の部活動に関する地域クラブ活動を設置した。
- 参加人数により、活動量が確保できるように、1か所又は2か所で活動できるようにした。
- 他市町のコーディネーターと適宜、協議を行い、方向性の確認を行ったり、今後の連携の可能性について、話し合った。

各自治体の役割

- 競技団体と協議し、運動部の種類に相当する地域クラブ活動を設置した。
- 他市町のコーディネーターとの協議を推進する。

移動手段

- 同一場所での活動では、保護者の送迎を主としているため、不公平感があるため、活動場所のローテーションを行った。
- 問題点としては、活動日ごとに備品等の移動が必要なこと、活動場所が固定でないと、活動場所を間違えることがあるなどが生じた。

事務局運営の方法

- 総括コーディネーターが関係団体等との連絡調整を実施した。

取組の成果

- 他市町のコーディネーターと協議することで、今後の方向性（アプリの活用・保護者負担の割合など）について、確認することができた。
- 地域クラブ活動の運営方針や指導方法、活動場所の確保、鍵の開錠・施錠などの確認を行うことができた。

今後の課題と対応方針

- 生徒等が広域的な活動を行う可能性があることも踏まえ、他市町の地域クラブ活動への参加も視野に入れた整備を行う必要がある。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実①

取組事項

- 子どもが地域でスポーツに親しむ機会を確保するため、令和6年度には、中学校で行われている全ての部活動に相当する地域クラブ活動を設置する。
- 各地域クラブの情報を共有し、よりよい方向性を話し合い、実際の運営に生かすため、地域クラブの運営責任者（種目コーディネーター）の実務者会議を5回開催する。

活動の詳細

- 設置の地域クラブ活動の数
 - 令和5年度 2（ソフトテニス・剣道）
 - 令和6年度 10（ソフトテニス・剣道・柔道・卓球・軟式野球・バドミントン・バレーボール・バスケットボール・陸上・サッカー）
- 実務者会議の開催
 - 第1回 ① 日時 令和6年4月（個別に随時実施）
② 内容 ・謝金等の事務手続き ・安全保険の加入 ・前期の運営方針
 - 第2回 ① 日時 令和6年8月26日（月曜日）
② 内容 ・前期の活動状況 ・大会出場等について
・計画の変更（ホームページの活用） ・指導者研修会について
 - 第3回 ① 日時 令和6年10月15日（火曜日）
② 内容 ・出欠の確認（Formsの活用） ・通帳の作成 ・活動計画の作成
・指導者同士の連絡方法
 - 第4回 ① 日時 令和6年12月（個別に随時実施）
② 内容 ・後期の運営状況
 - 第5回 ① 日時 令和7年2月（個別に随時実施）
② 内容 ・来年度の運営
- 今後の方向性
 - ・複数のスポーツを体験できる地域クラブ活動を設置していく。
 - ・障がいの有無に関係なく、スポーツ活動ができる体制を整えていく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

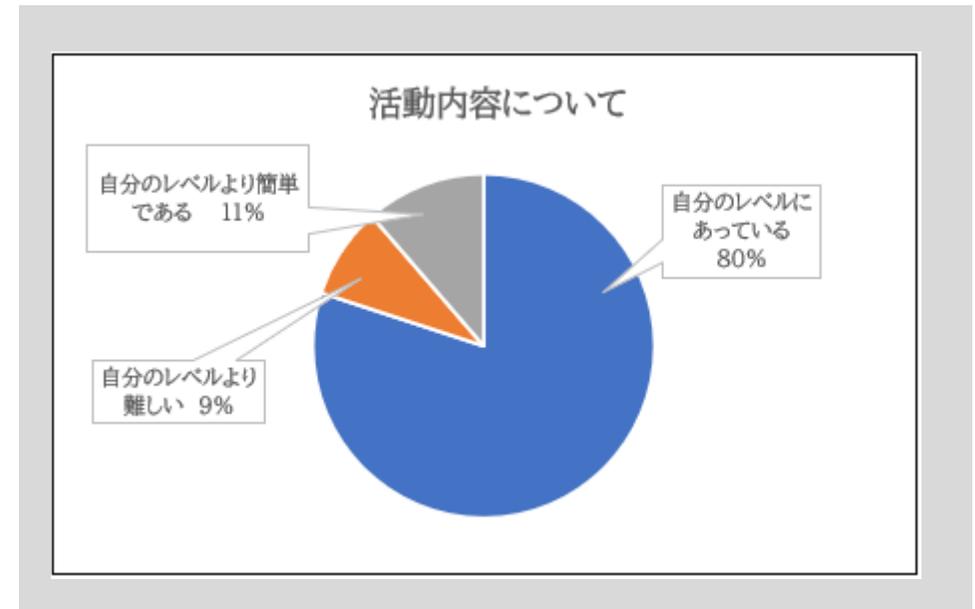


取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実②

取組の成果

- 各地域クラブ活動の指導内容を越前市の理念や方針に沿ったものにするため、指導者研修会や実務者会議を開催して、参加している生徒が満足できる活動になるよう心掛けた。
- 参加者のアンケートによると、自分のレベルにあった内容であると答えた生徒が80%であった。



今後の課題と対応方針

- 今年度の参加者にも、複数の種目を選択している生徒が5人いた。いろいろなスポーツをやりたいというニーズがあるので、それが実施できる地域クラブ活動を設置していく。

- 当市では、令和7年度より文化の地域クラブ活動で、いろいろな活動を行うことができる活動を設置する予定である。令和7年度の文化の活動状況を見て、スポーツの地域クラブにおいても、令和8年度からの設置を検討していく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等①

取組事項

団体を支援する中で間接的に受益者の負担を軽減する。

地域クラブに係る経費

■イニシャルコストの分析

イニシャルコストは、特に生じない。

■ランニングコストの分析

公共施設を利用して、ランニングコストを抑える。

持続的な運営に必要な受益者負担額の試算

<モデル事業終了後>

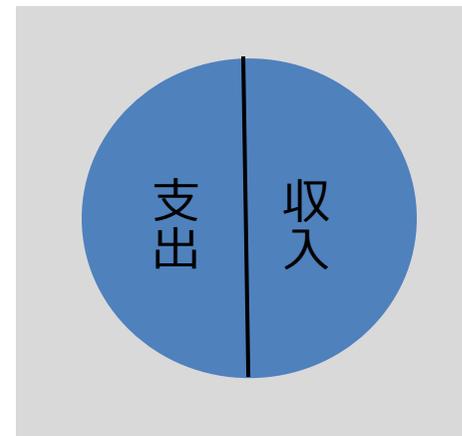
指導者謝礼（1人）：6,000円（3時間）（A）

参加生徒数：10人（B）

受益者負担（1回）：指導料600円（ $A \div B$ ） + 諸雑費400円
= 1,000円

月3回：3,000円（保険料、消耗品費含む）

収支バランス



<モデル事業終了後>

保護者負担を導入していく。公的負担と保護者負担の割合を検討していき、収入と支出のバランスがとれて、持続できる金額を設定していく必要がある。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等②

取組の成果

- R6は、保険料以外を委託料で賄ったため、参加者の費用負担を抑えた。
- 今後、保護者等に負担が見込まれる受益者負担を低廉な額とすることや、生徒の安全を確保するため、学校体育施設を中心に実証事業の活動を実施したため、地域クラブ活動の活動場所に係る参加者の費用負担を抑えることができた。
- 各クラブの運営費を抑えるため、集金業務や出欠確認をおこなう連絡アプリの導入の検討をおこなった。

R6

参加者負担：800円（年額）

地域クラブ活動費：委託料
（上記参加者負担除く。）

今後の課題と対応方針

○令和8年度は、モデル事業が終了するため、受益者負担と公的負担のバランスを考えながら、令和8年度から令和13年度に向けて、月額3,000円の考え方をベースに、計画的に地域クラブ活動の参加費を検討し、適正な負担の在り方を研究する必要がある。参加人数の少ない地域クラブ活動を維持するための仕組みの構築も必要と思われる。

○経済的困窮世帯の生徒が地域スポーツクラブ活動に参加する場合に、参加費等助成の検討する。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

取組事項

- 今後、保護者等に負担が見込まれる受益者負担を低廉な額とすることや、生徒の安全を確保するため、学校体育施設を中心に実証事業の活動を実施した。
- 中学校校長会に協力を求め、優先的に休日の施設使用ができるように依頼し、学校の施設を地域クラブ活動で使用した。
- 市の施設についても、担当課の協力を得て、優先的に施設使用を行った。

取組の成果

- 中学校の施設を、バレーボール、サッカー、バスケットボール、軟式野球、バドミントン、卓球は、全ての活動で使用した。
- 市の施設を、陸上、剣道、ソフトテニス、柔道は、すべての活動で使用した。

今後の課題と対応方針

- 当市では、全ての部活動を地域クラブ活動で実施しているため、教育委員会と中学校校長会が協議を行い、地域クラブ活動を行う日には、部活動は、一斉に活動しないように調整したため、学校の施設を優先的に使用することができた。
- 屋外の競技についても、冬期間は、荒天の日が多く、令和7年度以降は、体育館使用を考えていく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ク：その他の取組 平日の移行

取組事項

○改革推進期間後を見据えた取組を推進する観点から、休日だけではなく、平日も含めた地域スポーツクラブ活動への移行に向けた取組等を実施のため、課題の抽出や課題解決策の検討等を行った。

取組の成果

○今後の平日の地域移行を見据えて、中学校の部活動指導員を増員するよう予算化し、推進している。

令和5年度	6人
令和6年度	7人
令和7年度	9人（予定）

指導者の属性や配置の工夫

- ・指導者の属性
元教員、地域の指導者
- ・配置の工夫
顧問の競技歴や指導歴が不足している部活動を中心に配置している。

一貫指導に関する部活動顧問との連携事例

○顧問と同時に指導する時間を設定し、練習内容や配慮すべき事項について、相談や連絡がやりやすいように配慮している。

今後の課題と対応方針

○平日の指導者の確保が課題となっているが、スポーツ少年団や競技団体と協議を行っていき、人材の発掘に努める。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

- ・全国的に少子化が進む中、子どもが地域でスポーツや文化に親しむ機会を確保するため、現在、全国的に休日部活動の地域クラブ活動への移行が進められている。
- ・本市においても、中学校における部活動のあり方について、令和5年度から「越前市の子どもの新たな活動環境に係る検討委員会」、令和6年度からは、「越前市の子どもの新たな活動環境構築に係る協議会」により、越前市における、新たなスポーツや文化芸術の活動環境構築について検討し、次のように越前市の基本的な考え方をまとめた。
 - (1)少子化等の中でも将来にわたり越前市の子どもたちが、スポーツや文化芸術に継続して親しむことができる機会を確保する。
 - (2)越前市の子どもたちが、自発的な参画を通して「楽しさ」「喜び」を感じ、自己実現を図りながら活動することができる場を整備する。
 - (3)地域の持続可能で多様なスポーツや文化芸術の環境を一体的に整備し、子どもたちの多様な体験機会を段階的に確保する。
- ・この方針に沿い、地域クラブ活動を展開している。

●成果の評価

- ・令和5年度には、ソフトテニスと剣道の休日の地域クラブ活動を立ち上げた。
- ・令和6年度には、新たに軟式野球、サッカー、卓球、バドミントン、バスケットボール、バレーボール、陸上、柔道の地域クラブ活動を立ち上げ、10の地域クラブ活動を運営している。この結果、本市の中学校に設置されているすべての運動部の種目に相当する地域クラブ活動が整備された。
- ・指導者の確保については、総括コーディネーターが競技団体やスポーツ少年団等と協議し、人材を発掘し、総数107人の指導者を確保している。
- ・指導者の質については、総括コーディネーターの巡回や実務者会（各運営団体の代表者）、指導者研修会の実施により、指導方法や練習方法に助言を与え、生徒のアンケートによると91%が「とても楽しい」「まあまあ楽しい」と答えている。

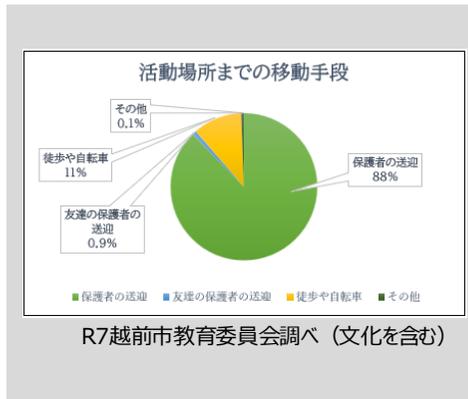
●今後に向けて

- ・課題としては、今後の受益者負担の在り方、また全ての地域クラブ活動が複数校区（市内全校区）の生徒を受け入れているが、交通交通が弱い地域であるため練習場所等へのアクセス方法が課題となっている。令和7年度は、この課題の解決に向けて研究していく。

アンケート結果・参加者の声

●アンケート結果

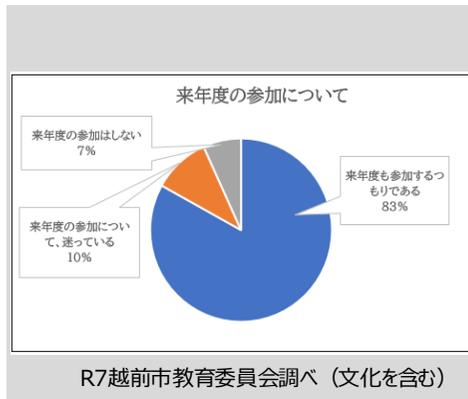
Q .活動までの移動手段は？



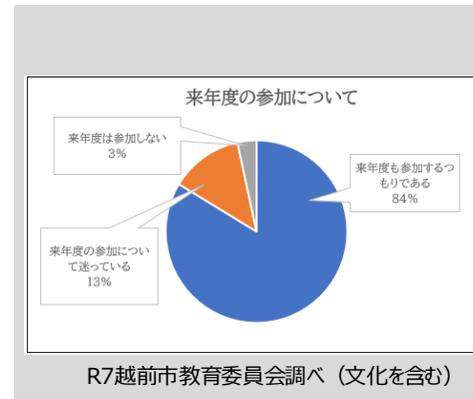
Q .活動が楽しくないとしたら、その理由は？



Q . R7も地域クラブに参加しますか？



Q.（保護者の方に）生徒のR7の参加についてどう思いますか？



●参加者の声

中学1年生

指導者に練習方法のポイントを分かりやすく伝えてもらえるのがよい。また、指導者が多数いるので、いろいろなアドバイスを受けることができる。

中学2年生

他校の生徒と一緒に活動できるので、刺激になる。また、常に新しい練習方法を教えてもらえるので、部活動に生かすことができる。

指導者

競技を好きになってもらうための指導を心がけている声をかけたときに、すぐに吸収しようという体動の生徒が多いのがうれしい。

保護者

いろいろな指導者に声をかけてもらえるのがよい。また、専門的な指導を受けることができ、部活動にも、生かしているようである。

2.実証内容と成果③

アンケート結果・広報資料

新年度募集に合わせ、保護者を含め、参加を啓発している。
また、アンケートを取り、参加したいと思う気持ちの醸成を図っている。

越教振第 5669 号
令和6年3月11日

保護者 各位
越前市教育委員会教育振興課長

令和6年度越前市地域クラブ活動の参加申込について

日頃より、本市の教育活動にご理解とご協力を賜り誠にありがとうございます。
越前市地域クラブ活動(ソフトテニス・剣道・柔道・美術・合唱)の令和6年度の活動を4月13日(土)より開始いたします。地域クラブ活動の参加を希望される方は、下記のQRコードからお申込みください。
なお、ソフトテニス・剣道・美術については、令和5年度参加していた生徒も再度の申し込みが必要となります。また、すべての分野や種目について新1年生だけでなく新2年生と新3年生の新たな申し込みも可能です。

4月13日(土)から活動を希望される方は、3月25日までに下記のQRコードから申し込みをお願いします。新1年生は、学校の部活動を決めてから、5月25日から参加することもできます。その後も、申し込みは随時受け付けますので、いつでも参加することができます。その場合も、下記のQRコードから申し込みください。

今回、各中学校で行った説明会の資料は、越前市役所のホームページ(以下のURL)に掲載しております。お読みいただき、参考にしてください。
https://www.city.echizen.lg.jp/office/090/020/aratana_katudou_kankyou.html



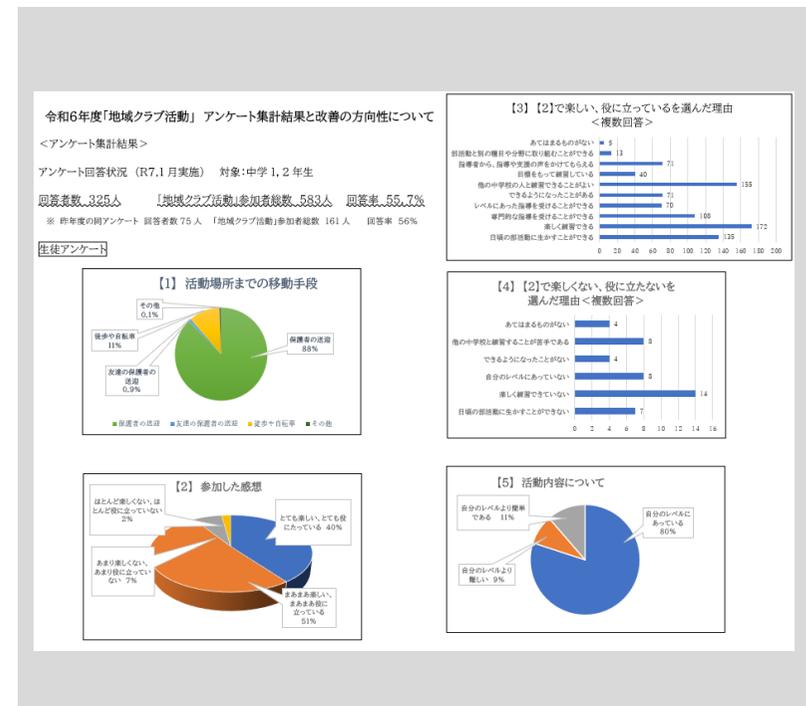
【市HP】



【活動参加申込QR】

1 申込期限 初回 令和6年3月25日(月)
2 その他 ・地域クラブ活動開始にあたっての諸連絡等は、活動日までに連絡をさせていただきます。
・第1回の活動日に保険料800円を現金で徴収いたします。
・ご不明な点については下記の担当までお問い合わせください。

【生徒への参加啓発チラシ】



【アンケート結果】

2.実証内容と成果④

参考資料（活動写真）



【地域クラブ活動（バレーボール）】



【地域クラブ活動（卓球）】



【地域クラブ活動（サッカー）】



【地域クラブ活動（陸上）】

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



ステークホルダー

学校、PTA連合会、競技団体、スポーツ少年団
市長部局、市教委、総括コーディネーター、各種目の代表

経過

令和4年度より地域クラブ活動の協議会を設置し、令和5年度からは、剣道連盟とソフトテニス連盟の協力を得て、2種目をモデル事業として、地域クラブ活動をスタートさせた。また、各運営団体の代表による実務者会議を設置し、課題について、競技する場を設置した。令和6年度からは、市内の中学校に設置している部活動全ての種目の地域クラブ活動を実施した。

実施内容

10月からは市内8中学校の20部活動において月2回～3回、休日の部活動を取りやめ、地域クラブ活動へ参加する取組を開始した。地域クラブ活動は全10クラブが実施された。全てのクラブは、市内のどの中学校からも参加可能である。活動は、市の中学校や市の施設を優先的に使用している。

実施にあたって生じた課題

休日のクラブ活動において、連絡や出欠報告などの運営団体の負担が大きいとの指摘があり、Formsやホームページの活用を図った。現在は、保護者の送迎を基本としているため、会場のローテーションを試験的に行ったが、会場の間違いや備品の移動などの問題があった。令和6年度は、会場の設定を各家庭から20分以内との基準を設け、活動場所を調整している。しかし、アンケートでは、送迎の負担が指摘されているので、デマンド交通などの導入も含め、市内部の協議を進めていく。

今後の展開

大会への参加のあり方を含め、令和7年度の8月までに、学校の状況、保護者や生徒の意向をふまえ、どのような形態で、地域クラブ活動を行っていくかについて、検討していく。その結果を受け、令和7年10月からは、中学校の部活動全てに相当する、休日の地域クラブ活動を毎週実施する。

3. 今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

R6	R7	R8～
<ul style="list-style-type: none">・実証活動の増加 新規 柔道、陸上、卓球 バスケットボール バレーボール バドミントン 軟式野球 既存 ソフトテニス、剣道・指導者講習の確立	<ul style="list-style-type: none">・実証活動の活動日の増加 R6 月2回から3回 R7 全ての休日・指導者講習のブラッシュアップ・生徒の交通手段の研究・モデル事業終了後の受益者負担額の検討	<ul style="list-style-type: none">・地域クラブ活動の種類増加 (障がいのある生徒を含めた活動) (いろいろな種目を含めた活動)・指導者講習のブラッシュアップ・生徒の交通手段の研究・適正な受益者負担による地域クラブの自走化

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

福井県 坂井市

自治体名：福井県坂井市

担当課名：生涯学習スポーツ課

電話番号：0776-50-3162

基本情報

面積	209.67 km ²
人口	88,973 人 (R6.1)
公立中学校数	5 校
公立中学校生徒数	2,424 人 (R7.1)
部活動数	70 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	未来の地域クラブ 推進委員会 令和5年4月設置
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	推進計画 長期 単年度 地域クラブ設立の 手引き

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

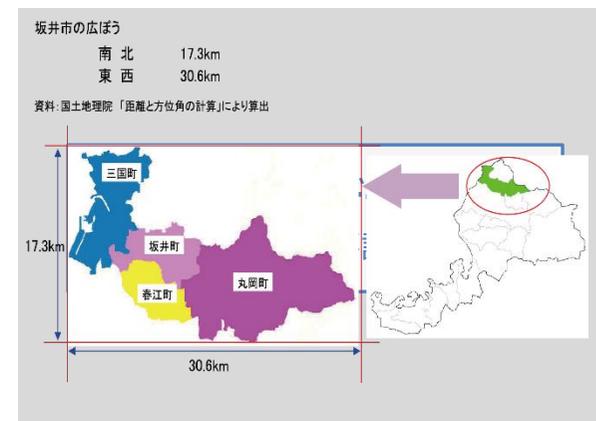
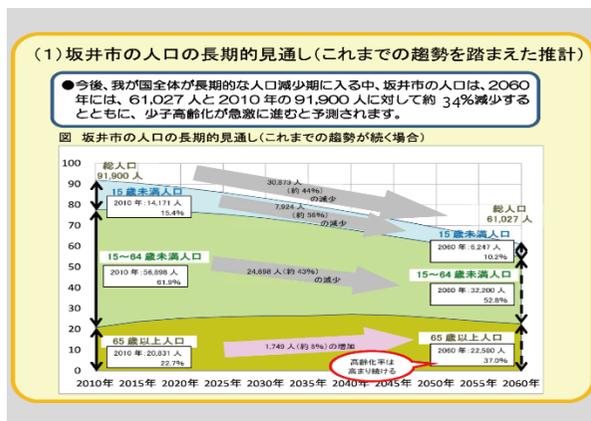
○急激に進む少子高齢化

坂井市の人口の長期的見通しでは2060年の人口を6万1,027人と予測している。これは2010年の9万1,900人に対して約34%の減少となる。また、15歳未満では2010年には6,247人となり2010年の1万4,171人に対して約56%の減少となる。

○距離的課題

2006年に4町が合併して坂井市となった。福井県においても有数の田園地帯に位置しており、市の広ばうは南北17.3km・東西30.6kmと

横長に伸びる地形である。市内は4行政区に分かれており、5中学校をとりまく環境は校区ごとに特徴が異なる。また、学校間の距離は三国・丸岡南中学校間で18.6km、丸岡・丸岡南中学校間では2.6kmと中学校の交流をみると交通の条件に偏りがある。徒歩や自転車での移動が可能な距離であっても街灯や歩道の整備状況は十分ではない。移動において安全・安心を確保する点では課題を有している。校区外への移動はほぼ保護者等の送迎に頼らざるを得ない現状である。少子化による生徒数減少の状況も中学校によって隔たりがある。

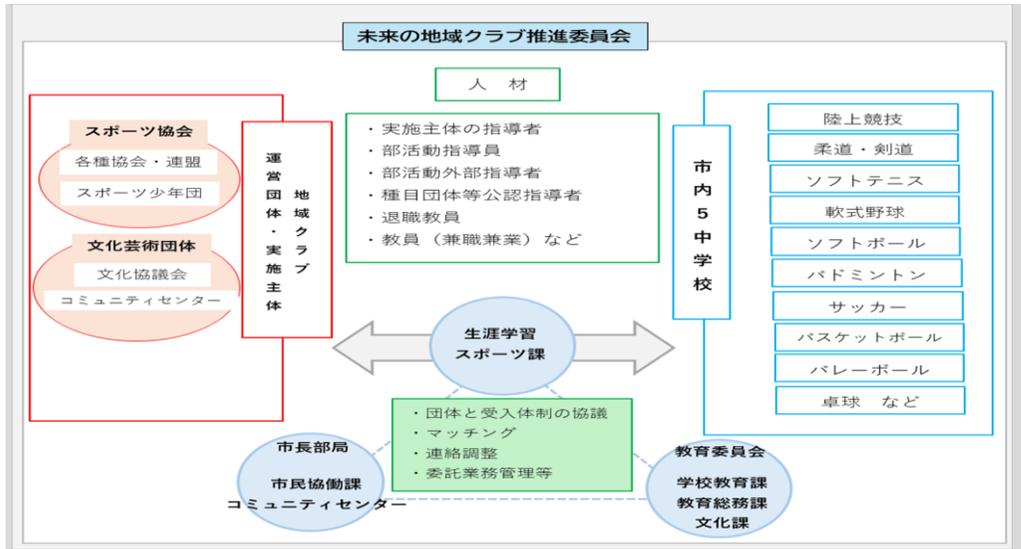


坂井市統計より

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

学校教育課

- ・学校部活動改革に関わること
- ・地域連携推進に関わること
- ・生徒や保護者、教員の意識調査
- ・教員の兼職兼業に関わること

教育総務課

- ・学校施設の利便性向上や改善

生涯学習スポーツ課

- ・地域クラブに関わること
- ・推進全体計画立案
- ・推進委員会に関わること
- ・指導者確保に関わること
- ・指導者の資質向上に関わること
- ・関係団体との連携

年間の事業スケジュール

令和6年 4月	リーフレット（中学生・保護者）
令和6年 5月	部活動顧問説明会（各中学校）
令和6年 5月	学校施設利用規定策定
令和6年 6月	指導者確保（小学校教職員）
令和6年 6月	AED利便性向上対策
令和6年 6月	危機管理マニュアル策定
令和6年 7月	地域スポーツ推進委員会
令和6年 8月	中学校現場の声調査・Q&A策定
令和6年 9月	小・中学生・保護者アンケート
令和6年11月	地域スポーツ推進委員会
令和7年 2月	地域活動団体中学生受け入れ調査
令和7年 3月	地域スポーツ推進委員会
令和7年 3月	坂井市地域指導者研修会

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	5校	実施した地域クラブ総数	16クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		16クラブ（25部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		1クラブ
全体の指導者数	66人	全体の運営スタッフ数	16人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目	実施回数	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
坂井柔道クラブ	坂井サポート	柔道	週1回	14:00~ 16:00	1年 2 2年 4 3年 4	通年	坂井武道館	3人	1人(1)	月会費 2,000円	中体連：部活動 その他：地域クラブ
三国陸上クラブ	三国陸上	陸上競技	週1回	9:00~ 12:00	1年 7 2年 4 3年 6	通年	三国運動公園	2人	1人(1)	月会費 1,000円	中体連：部活動 その他：地域クラブ
三国剣道クラブ	三国陸上	剣道(新)	週1回	9:00~ 12:00	1年 3 2年 2 3年 1	通年	三国中学校	2人	3人(1)	月会費 2,000円	中体連：部活動 その他：地域クラブ
三国ソフトボールクラブ	自主運営	ソフトボール女子(新)	週1回	9:00~ 12:00	1年 3 2年 7	通年	三国中学校	3人	0人	月会費 2,000円	中体連：部活動 その他：地域クラブ

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

②各クラブに関すること（その2）

クラブ名	運営団体種別	種目	実施回数	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
三国野球クラブ	三国陸上	軟式野球(新)	週1回	9:00~12:00	1年 5 2年 10	通年	三国中学校	3人	1人(1)	月会費 2,000円	中体連:部活動 その他:地域クラブ
坂井剣道クラブ	自主運営	剣道(新)	週1回	18:00~20:00	1年 2 2年 4	通年	坂井武道館	6人	0人	保険料	中体連:部活動 その他:地域クラブ
坂井バレーボールクラブ	単独	バレーボール女子(新)	週1回	9:00~12:00	1年 21	通年	坂井中学校	3人	1人	保険料	中体連:部活動 その他:地域クラブ
丸岡剣道クラブ	2校区自主運営	剣道(新)	週1回	9:00~12:00	1年 3 2年 5	通年	丸岡武道館	14人	0人	保険料	中体連:部活動 その他:地域クラブ
丸岡ソフトテニスクラブ	坂井サポート	ソフトテニス(新)	週1回	9:00~12:00	1年 4 2年 9	通年	丸岡中学校	2人	1人(1)	月会費 1,000円	中体連:部活動 その他:地域クラブ

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

②各クラブに関すること（その3）

クラブ名	運営団体種別	種目	実施回数	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
丸岡サッカークラブ	坂井サポート 2校区	サッカー (新)	週1回	9:00~ 12:00	1年 12 2年 15	通年	シンコー スタジアム	4人	1人(1)	月会費 2,000円	中体連：部 活動 その他：地域 クラブ
丸岡女子バスケットボールクラブ	坂井サポート 2校区	バスケットボール女子 (新)	週1回	9:00~ 12:00	1年 4 2年 6	通年	丸岡中学校	4人	4人(1)	月会費 500円	中体連：部 活動 その他：地域 クラブ
丸岡南ソフトテニスクラブ	自主運営	ソフトテニス男子 (新)	週1回	9:00~ 12:00	1年 4 2年 9	通年	丸岡運動公園	3人	1人(1)	保険料	中体連：部 活動 その他：地域 クラブ
丸岡南バドミントンクラブ	坂井サポート	バドミントン (新)	週1回	9:00~ 12:00	1年 8 2年 16	通年	丸岡南中学校	3人	1人(1)	月会費 500円	中体連：部 活動 その他：地域 クラブ
春江中バドミントンクラブ	単一校	バドミントン (新)	週1回	9:00~ 12:00	1年 5 2年 11	通年	春江B&G海洋センター	5人	0人	月会費 2,000円	中体連：部 活動 その他：地域 クラブ

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

②各クラブに関すること（その4）

クラブ名	運営団体種別	種目	実施回数	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
春江ガーディアンズ	単一校	バスケットボール女子 (新)	週1回	9:00~ 12:00	1年 8 2年 12	通年	春江中学校	5人	0人	保険料	中体連：部活動 その他：地域クラブ
坂井卓球クラブ	坂井サポート	卓球(新)	週1回	9:00~ 12:00	1年 16 2年 9	通年	春江西コミュニティセンター	4人	1人(1)	月会費 1,000円	中体連：部活動 その他：地域クラブ

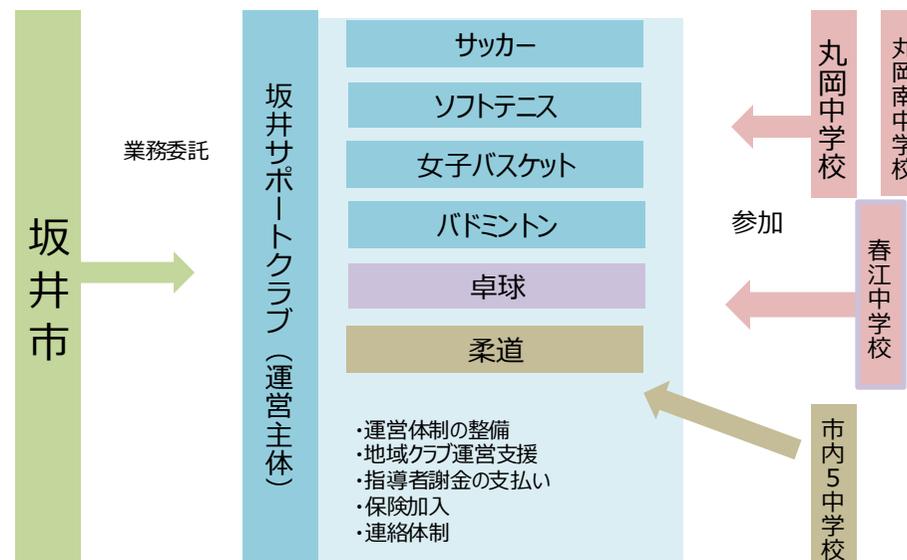
2.実証内容と成果

主な取組例

坂井サポートクラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	サッカー、ソフトテニス、バドミントン 女子バスケットボール、卓球、柔道
運営団体名	坂井サポートクラブ
期間と日数	通年（最大45回）
指導者の主な属性	教員OB、部活動指導員、種目協会
活動場所	丸岡・丸岡南中学校、市の施設
主な移動手段	徒歩、自転車、家族送迎
1人あたりの参加会費等（年額）	サッカー：24,000円 柔道：24,000円 丸岡ソフトテニス：24,000円 丸岡女子バスケットボール：6,000円 坂井卓球：12,000円 丸岡南バドミントン：6,000円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

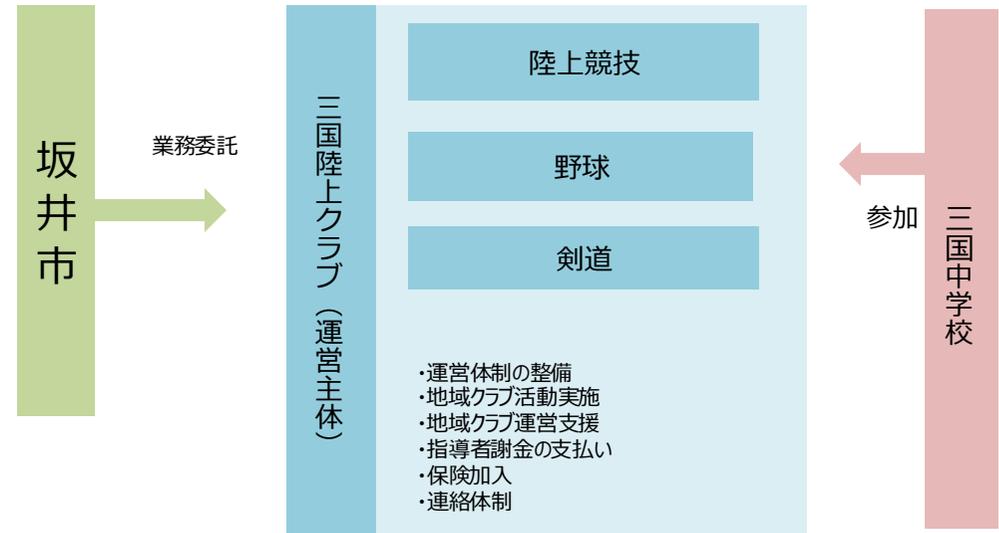
- 統括責任者…坂井サポートクラブ代表
役割：クラブの運営全般を行う
- 主任指導者 20名
役割：学校部活動と連携した休日の活動における指導を行う
- 運営補助者 4名
役割：指導者の負担軽減を行うため事務処理やその他クラブ運営の支援を行う

主な取組例

●三国陸上クラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	陸上競技、野球、剣道
運営団体名	三国陸上クラブ
期間と日数	通年（最大45回）
指導者の主な属性	教員OB、部活動指導員、種目協会
活動場所	三国中学校、三国運動公園
主な移動手段	徒歩、自転車、家族送迎
1人あたりの参加会費等（年額）	陸上：12,000円 野球：24,000円 剣道：24,000円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

- 統括責任者…三国陸上クラブ代表
役割：クラブ運営全般を行う
- 主任指導者 7名
役割：学校部活動と連携した休日の活動における指導を行う
- 運営補助者 3名
役割：指導者の負担軽減を行うため事務処理やその他クラブ運営の支援を行う

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

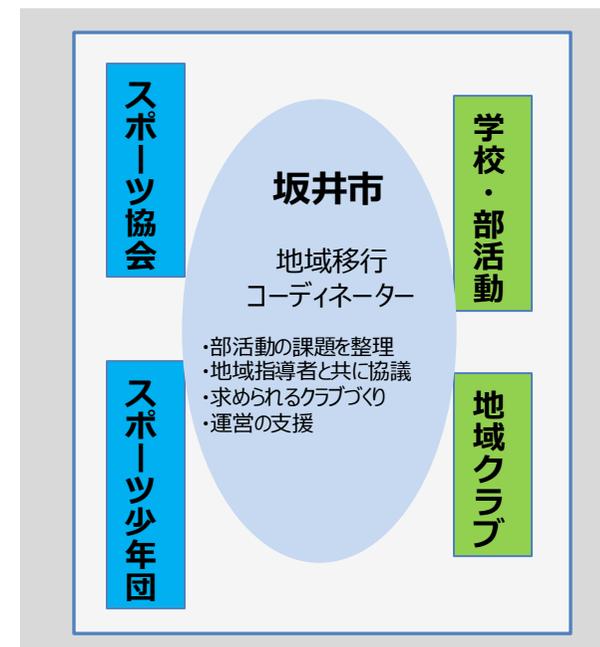
● 取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

1. 「坂井市地域クラブ設立の手引き」を作成し、地域クラブの要件や運営に関する基本的事項、設立の流れを掲載し、関係者に説明・配布した。
2. 学校で指導者打合せ会を開催し、市・学校・地域クラブの連携について協議した。
3. 事案ごとにクラブ説明会を開催し、生徒・保護者への細かな説明や質疑応答を行った。

取組の成果

1. 「地域クラブ」活動についての理解が深まり、クラブや指導者ごとの見解の違いが減少した。また、学校やクラブからの質問や要望が具体的になった。
2. 打合せの会場を学校で行うことで、会議に割かれる教員の負担を減らしながら打合せを行うことができた。また、会議の内容や決定事項など学校管理職との連絡調整もスムーズに行うことができた。
3. 学校部活動ごとに説明会を開催することで、実施計画や費用負担、種目や競技の特性に合わせた説明をより具体的にを行うことができた。また、参加者も質問や発言がしやすい環境であった。



コーディネーターの具体的な動きの実績

令和6年度1月31日までに16クラブ（25部活動）の地域移行を実施。令和6年度では14クラブ（19部活動）において57回の打ち合わせと14回の保護者説明会を実施した。打ち合わせにこぎつけるまでの準備交渉については筆舌に盡しがたい。指導者は100名を確保したが道半ばである。

今後の課題と対応方針

- ・指導者の発見およびマッチング共に非常に困難である。情報の取りまとめに多くの労力を要する。各自治体単独で行うのは限界があり、またロスも大きい。指導者情報の取りまとめについて各種団体や組織、自治体の支援を要する。
- ・地域クラブでは指導者のほか支援スタッフの確保が急がれる。
- ・新たな関係団体や組織を確保し、協力・連携体制を広げる必要がある。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



スポーツ庁

取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保①

取組事項

1. 指導者の発掘・選定では、種目団体関係者や学校関係者等に照会し、その指導歴や力量など人物評価等について情報収集を行った

人材バンクの人数

101名

人材バンクの年齢構成

10代	0名
20代	0名
30代	10名
40代	20名
50代	31名
60代以上	50名

登録者属性

・県スポーツ協会や市スポーツ協会、スポーツ少年団、学校関係者からの情報により面談を実施し、本人の意思を確認しながら人材を集めた

種目

・現在は、学校部活動に存在する種目に限定して行っている
・令和8年度から新しい種目や様々な自主運営団体の受け入れについて取りまとめ、指導者のはばを広げる予定

資格有無

・指導者となるスポーツ少年団や中学校、高校で指導経験ある人材を中心に指導者を募っている
・ほぼ全員が全国的に展開している種目協会や日本スポーツ協会の資格等を有している

取組の成果

- ・各種目ごとの指導者同士の横のネットワークが新たな指導者の発掘では効率が高かった。
- ・部活動指導員や地域スポーツ指導者など中学生や教師との関わりを持ったことのある地域指導者の存在が、生徒や保護者に安心感を与えスムーズな地域移行につながっている。試しに部活動の場に指導者として立てるような取り組みが必要である。
- ・人材バンクは、小さな自治体では限界があり、広い範囲で情報を共有できるような取り組みが必要である。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保②

指導者研修の内容

○県主催の他、市主催で指導者研修会を開催した。

講師：南部さおり氏（日本体育大学教授）

主な原因

1. スポーツ医学の知識にもとづいた危機管理について
2. スポーツハラスメントがおよぼす影響とコーチングについて
3. 小グループでのディスカッション

指導者研修の参加実績

- ・開催日： 3月1日
- ・開催回数： 1回
- ・参加人数： 22人
- ・会場：高椋コミュニティセンター

受講者の声

- ・実際の事故現場の映像をまじえた説明で分かりやすかった。
- ・現場で起こりえる重大事故の場面を想定した内容であり、今後指導に生かしていこうと思う。
- ・地域移行のあり方について話を聞きたかった。
- ・ハラスメントがおよぼす身体への影響など、医学的・科学的に分析してのお話でよく理解できた。今大切にしなければならぬ考え方を知ることができたように思う。
- ・今までの指導法をいろいろと考え直す良い機会となった。
- ・内発的行動を引き出すための具体的手立てや事例について、もっと知りたい。

今後の課題と対応方針

- ・参加者からは研修内容について満足したとの回答が多かった。開催期日については、県レベルでの強化練習会など他のスポーツイベントと重なる不都合があった。指導者の出席しやすい日程について再考したい。
- ・研修内容の希望については、具体的な取り組みを例示して指導法や生徒への対応の仕方などを求めている。中期的な見通しで研修プログラムを策定するための情報提供を求めたい。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

1. 市スポーツ協会と定例連絡会の開催（毎月1回）
2. 部活動顧問会への参加（学期に1回程度）
3. 市長部局市民協働課との連携
4. 地域クラブ支援を行う民間スポーツクラブとの連携

取組の成果

1. 定期的に連絡会を行うことで、地域移行について課題の共有化を図った。その他各体育施設の管理責任者を交えて施設利用について効率を向上するための意見交換を行った。
2. 現場の指導を担う教師と意見交換をし、部活動が抱える課題について協議することで、実態に即した移行となるよう調整を進めた。教師の理解も深まり、前向きな意見が出るようになってきた。
3. 中学生のコミュニティセンター施設利用の利便性向上について協議した。
4. 令和6年度より地域クラブの活動を開始した2クラブと市が連携して、事務処理等の運営面で不安を持っている地域クラブに対してサポートできる体制を整えている。坂井サポートクラブでは6地域クラブ、三国陸上クラブでは3地域クラブが運営面での支援を受けて活動している。多種目に分かれる地域クラブの横のつながりを強化し、地域クラブ活動での課題を共有し、考え行動する場となっている。また、指導者の負担軽減に貢献している。

スポーツ団体への情報発信と対話

- ・日数 月例 12日
その他 1日
- ・参加者 市スポーツ協会役員・事務局員
市担当課職員

学校への情報発信と対話

- ・クラブ指導者、学校打合せへの参加 14日
- ・保護者説明会での説明 7日

学校への情報発信と対話

- ・日数 顧問会 2日
個別相談 50日
- ・参加者 総括コーディネーター
関係教職員

今後の課題と対応方針

- ・学校、スポーツ協会との連携はますます重要である。活動と共に発見する諸課題への対応は、広く意見を集約しなければならない。
- ・指導者の支援を行うクラブへの財政支援や人員の配置に課題がある。財政措置を行い持続性を担保することが急がれる。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 エ：面的・広域的な取組

取組事項

1. 町村合併前は同じ坂井郡内で交流も深い、隣接のあわら市と情報交換会を定期的に行った。(2ヶ月に1回程度)
その他、台風や大雪等での安全上の対応や危機管理についての情報交換や相談を適時行った。
2. 県教育委員会の発信する県内全域のスポーツクラブ情報の活用を行った。

各自治体の役割

- ・生徒の要望に対応できるよう市を超えての地域クラブへの参加のあり方など協働して施策を実施する。
- ・指導者研修会など市主催の事業で相互に希望者を受け入れるなど、指導者の交流を図る。
- ・生徒や保護者の要望や疑問を共有し、協力して課題解決の道筋について情報交換を行う。
- ・県内全域の情報発信

事務局運営の方法

- ・特に交流のための事務局など組織整備は行われていない。生徒の行動範囲に合わせた隣接市町において広域的な交流の場を設置する必要性を感じている。

取組の成果

- ・近隣の他市町村との積極的交流は地域クラブの活動と一致しており、教育委員会相互の情報交換が密であることで、様々な課題への対応にスピーディーで説得力が増した。
- ・県内の地域移行に関する情報が、整理されて発信されることは大変重要で大きな支えとなった。

今後の課題と対応方針

- ・現在は2市間での交流を積極的に行っているが、生徒の活動範囲を考えると福井市や永平寺町との交流も必要性がある。徐々に地域を拡大したいと考えている。
- ・県からの活動実態に合わせた情報提供は必要かつ重要である、何を求めたいかを整理して要望することが必要と考える。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



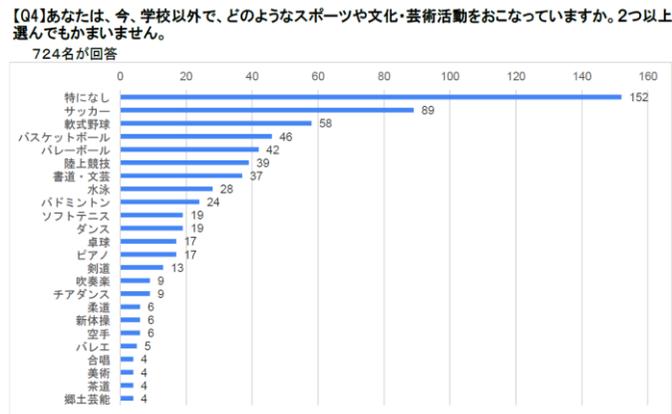
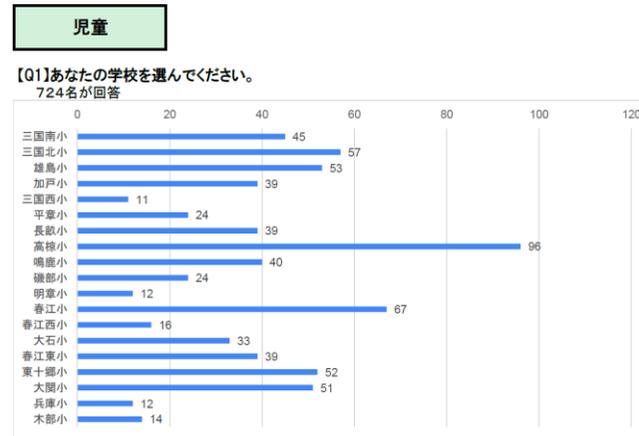
取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実

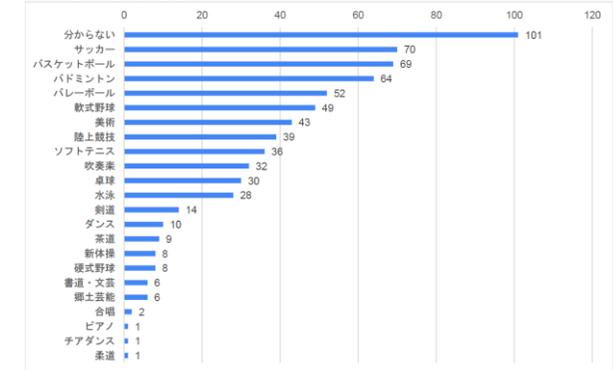
取組事項

- ・新しい種目（市内中学校にない種目）の整備については、生徒や保護者の要望等を踏まえて実施する予定である。
- ・令和8年度からの活動実施に向け、令和6年度に児童・保護者にアンケートを実施した。アンケート結果をもとに、令和7年度に関係団体と協議を行いながら、受け皿となる団体の確保や施策の決定を目指す。

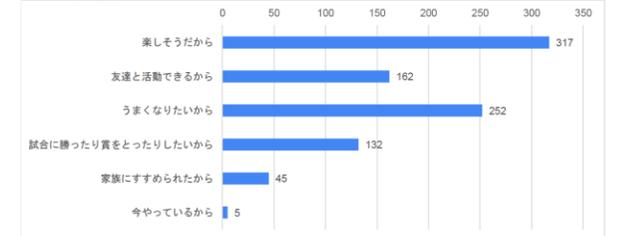
【小5・小6】中学校部活動の休日の地域移行についてのアンケート



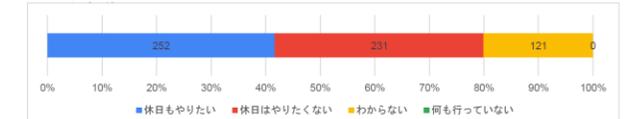
【Q4】あなたは、中学生になったら、どのようなスポーツや文化・芸術活動をおこなってみたいですか。2つ以上選んでもかまいません。



【Q5】Q4でその活動を選んだ理由は何ですか。(2つ以上でもかまいません)
604名が回答



【Q6】Q4で選んだ活動は、平日だけでなく休日もやりたいですか。



2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等

取組事項

○困窮世帯への支援に関する取組

- ・就学援助受給世帯を対象とした支援策の制度設計を計画していたが、地域クラブ設立及び指導者確保の進捗が想定より進まず、一部の生徒だけが制度を享受できるのは不公平であるとの観点から、令和6年度及び令和7年度は地域移行化の推進を優先して進めることとした。
- ・制度としては、就学援助（要保護・準要保護）を受給している世帯を対象に、会費や用具などの補助制度を想定している。

今後の課題と対応方針

- ・支援策について、現状では対象とする費目や金額、上限額などは未定であり、市の負担額も考慮しながら制度設計を進めていく必要がある。また、支援方法について、対象者からの申請方法や、支払い方法（事後清算方式で申請者に行うもしくは直接市がクラブに支払う）についてなど、課題も多々ある状況である。
- ・クラブに直接支払う場合は、クラブ側にその生徒が就学援助を受けていることを知らしめることとなり、個人情報保護の観点から問題になると思われる。また、申請者に支払う場合、申請者が金銭的に困窮しクラブへの支払いなど滞納するケースも想定されることから、四半期ごとなど、分散した支援についても検討が必要と考えている。
- ・まずは、地域移行化の推進を優先して進めながら、令和8年度から制度が運用できるように制度設計の完了も目指す。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等①

取組事項

- ・参加費徴収の上限を設定し、各地域クラブに会費の低廉化について依頼した。
 月徴収額の上限を2,000円
 年間徴収額の上限を24,000円
- ・学校が所有する部活動関係施設や備品を無償で使用できるようにして、地域クラブの経費削減に努めた。

地域クラブに係る経費

■イニシャルコストの分析

- ・学校部活動との連携により、競技用備品の共有、施設使用料の減免と1クラブあたり80,000円の消耗品費の支援を実施して初期費用の負担軽減を図った。
 団体としての初期費用はほとんどなかった。
- ・生徒の個人の競技用品等は部活動で購入したものを使用した。

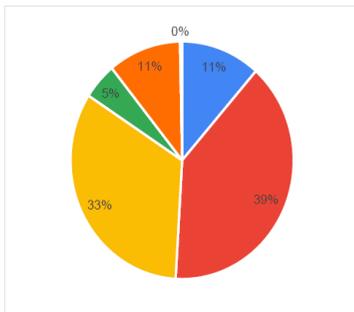
■ランニングコストの分析

- ・スポーツ保険料 生徒800円/年
 ※指導者のスポーツ保険料は自治体負担
- ・月会費は0円～2,000円で上限額を超える徴収はなかった。

持続的な運営に必要な受益者負担額の試算

【Q11】お子さまが休日に地域スポーツクラブ等での活動に参加する場合、活動にかかる経費(月謝等)はどの程度が妥当だと思いますか。

322名が回答(Q9で、「参加させたい」と回答した方)



・令和6年度小学6年生保護者対象のアンケート結果より、徴収額を設定し、各クラブにおいて実証を実施した。

収支バランス

<参考> 標準的な単位クラブでの例

指導者：2名/回

生徒：17名

①坂井市委託料 約63万円

②会費収入 約13万円

収入合計 約76万円

支出 ①指導者謝礼・旅費 約45万円

②消耗品費・事務費 約19万円

③練習会等参加経費 約13万円

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

取組事項

1. 部活動と地域クラブ活動が共存する期間は中学校で利用調整を行う。休日の地域移行完了後はコーディネーターがこれを行う。

2. 学校施設の改善

- ・外施設でも使いやすいAED配置計画の策定と予算化
- ・学校施設セキュリティの改善計画の策定

取組の成果

1. 学校施設を利用する際には学校顧問が連絡窓口となり、活動計画について地域指導者との意見交換の機会にもなった。学校関係者がリーダーシップを発揮することで、運用状況も問題を認めなかった。
2. 学校との協議を経て、AEDの利便性を高めるための確認ができた。設置場所の変更、増設のための令和7年度予算の獲得も目途が立った。セキュリティ改善については継続した審議が必要で、教育総務課が引き継いで計画の実施に向けて取り組むこととなった。教育委員会部内の連携強化にもつながった。

今後の課題と対応方針

・学校施設の改善については目途がしたが、不足している競技用備品や修繕の費用はなく、非常に苦慮している。

・休日において学校以外の体育施設は大変混雑しており、希望があっても利用は困難な状況である。地域クラブが使いやすい施設の提供が課題となっている。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

生徒の身近な場所で、なじみのある指導者が実施する地域クラブの設立を目指して事業を進めてきた。令和5年度に開始した2クラブをモデルに、令和6年度では坂井市地域クラブ設立の手引きを策定し、クラブ活動の理念や設立・開始までの手順を示した。坂井市の特徴としては、指導者が複数名配置できることを要件に加え、生徒や保護者からの多様な要望に対応できる体制整備に努めた。また、指導者にかかる業務を軽減するためクラブ間の協力体制を整備し、事務処理や集金などクラブ運営にともなう雑務を一元的に処理する体制整備に着手した。令和7年度末を目途に、すべての運動部活動を地域移行する計画で事業を推進しているが目標達成のためにはさらに困難さを感じる。具体的な改善策も暗中模索の状況である。支えとなっているのは徐々に地域クラブについての理解が広がり、協力・支援者も増えつつある。今後は、中学生を支えようとするさまざまな力を効率よく発揮できるよう体制整備を進める必要がある。

●成果の評価

- ・令和6年度26部活動を地域移行の計画のもと19部活動で実施
年度をまたいで開始する準備ができたもの3部活動をふくめても目標には届いていない状況である。
- ・クラブ間の協力体制構築では9クラブにおいて事務処理等の一元化を実施
令和7年度からはさらに3クラブが加わる予定である
- ・指導者の確保は約100名程度できたが地域や種目に偏りがある。
- ・参加者への満足度調査では概ね満足しているとの評価を得た。

●今後に向けて

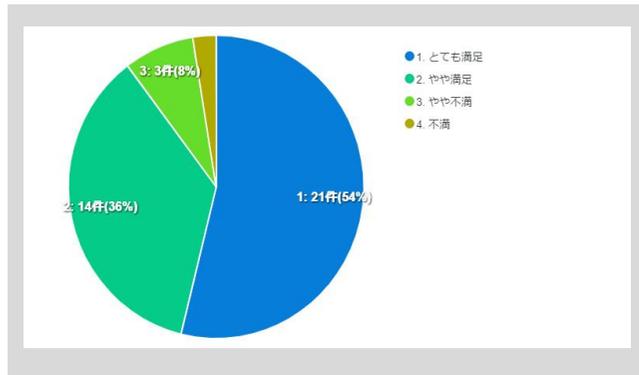
- ・参加者への意識調査をもとに実施内容の改善を図り、さらに充実したクラブ活動とする取り組みが必要であると考え。課題を整理し研修内容に生かしたり、指導者が相互に情報や意見の交流ができる場の整備が必要と考える。
- ・協力者や支援者の力を効率よく活用するための取り組み、特に保護者集団のクラブ活動への支援体制整備について保護者とともに考える場の創生が必要と考える。

2.実証内容と成果②

アンケート結果・参加者の声

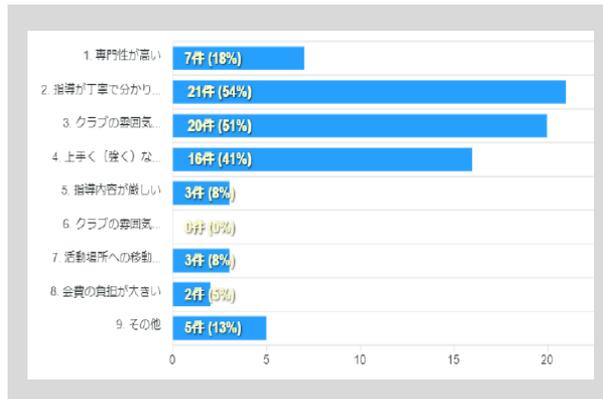
●アンケート結果

Q1.地域クラブ活動に参加してあなたの満足度について教えてください



とても満足	54%
やや満足	36%
不満	2%
やや不満	8%

Q2. 1 の設問に対する回答理由を選んでください (複数回答可)



1. 専門性が高い	18%
2. 指導が丁寧で分かりやすい	54%
3. クラブの雰囲気がよい	51%
4. 上手くなる(強くなる)実感がする	41%
5. 指導が楽しい	8%
6. クラブの雰囲気が悪い	0%
7. 活動場所への移動が大変	8%
8. 会費の負担が大きい	5%

●参加者の声

参加者の満足度

・とても満足とやや満足と答えた生徒は90%おり、概ね活動内容は良好な状況である。

満足度の要因

・「指導が丁寧でわかりやすい、活動の雰囲気が良い、上手くなる実感がする」が満足度を押し上げている。

不満度の要因

・「指導が厳しい・移動が大変、会費の負担が大きい」が不満の要因となっている。

その他の意見や感想

- ・指導や運営の負担が大きく指導者が心配
- ・部活動との連携が深まって欲しい
- ・練習時間を増やしてほしい
- ・スケジュールを早めに示してほしい
- ・部活動と内容がかわらない

アンケート結果・広報資料

地域移行についての啓発チラシを令和6年4月・9月に市内中学と小学校（5・6年生）の児童生徒・保護者に向けて、各学校のホーム&スクールシステムを使用して電子媒体で配布した。

To challenge 通信 vol.1

発行 坂井市教育委員会 生涯学習スポーツ課

広げようスポーツ・文化芸術活動の輪 ～坂井市が目指す部活動の地域移行とは～

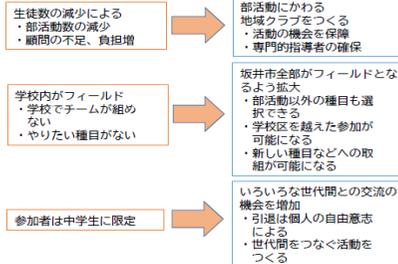
○部活動の現状と課題

今後の少子化の影響によって、部活動数や部員数は減少します。予想される課題として「単独校ではチームが組めない」「やりたい部活動の種目が設置されない」「専門的な指導ができる顧問がいらない」などのケースが増加します。

○地域移行とは？ 土・日（休日）の部活動を地域が行う

持続可能な部活動改革を目指して、坂井市教育委員会と地域の指導者・学校が連携して推進する事業です。また、部活動に変わって市が運営する団体を「地域クラブ」と言います。地域クラブでは競技力向上に限らない幅広い活動を目指します。

○地域移行で何がかわるの？



地域移行とは、今までの「部活動」の概念をなくし、新しく「つくり替える」を目的とした全国的な取組です。坂井市の地域移行とは、上に示した3つの視点を柱として改革を推進し、中学生のスポーツ・文化芸術活動の機会と環境を持続的に確保しようとするものです。

○休日の部活動は令和7年度末までに全て地域移行します 中学生の活動イメージ

年度	R5	R6	R7	R8以降
国のガイドライン	休日部活動の地域移行「改革推進期」			地域クラブ活動の充実 できるところから平日も移行
市の方針	休日の部活動を地域クラブへ移行 段階的に推進			休日の部活動は行わない
休日の活動		地域クラブ活動へ参加		地域クラブ活動へ参加
平日の活動	部活動へ参加			部活動へ参加

Q1 平日の部活動はどうなりますか？
A1 平日の部活動は今までのように学校で継続されます。

Q2 休日の地域クラブでは、どのような活動ができますか？
A2 現在、中学生が参加できる地域クラブなどを整備しています。詳しい内容は活動開始に合わせて生徒や保護者の皆さんに紹介していく予定です。
・活動時間(休日)は3h程度
・短時間に合理的かつ効率的な活動を行う
・人間力の育成を理念とした活動内容

いろいろなかたちの地域クラブができる予定です。
・各中学校単位で ・市としてひとつの場所で ・2～3の場所などで

Q3 活動に参加する際、どのような手続きが必要ですか、また費用の負担はありますか？
A3 紹介された活動の中から自分の参加したい活動を選び、各クラブの募集要項を見て、各自が申し込みをすることになります。活動に係る費用や会場までの送迎など、各家庭での対応になることが見込まれます。

〈部活動の地域移行〉の問合せ先
生涯学習スポーツ課 TEL 50-3162

未来のブカツ

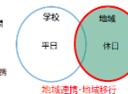
～広げようスポーツ・文化芸術活動の輪～

中学校部活動が変わります

坂井市では、少子化の影響によって中学校の部活動数や部員数は減少していく現状を鑑み、等しく広がり豊かさをスポーツ・文化芸術活動に継続して楽しむ機会を確保していきます。平日は学校部活動、休日は地域クラブとして学校と地域の連携・協働による生徒の活動の場を確保していきます。

活動の機会を維持・保障する教育環境整備

- 部活動の教育的意義や伝統を継承
生涯にわたる活動、選手層の厚さ、顧問の存在は競技力の向上に大きく影響します。
- 学校と地域の協働体制の構築
平日は部活動、休日は地域クラブ、教員と指導者の連携、学校施設や施設等の共有。



「地域の子供たちは、学校と地域を育てる」
地域クラブのあり方

・専門的な指導で発達途UP
・少人数でも大会参加
・特長を生かし、地域連携づくり
・学校施設や機材の利用可能

連携の進捗状況と今後の予定(文化感同存)

	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
休日活動の部活動数(78)	6	27 (9月現在:19)	45	地域クラブ以外は休日の活動休止



R6 中学校前(入)地域クラブ

学校名	部活動名	指導者	代表	所属・開催地	活動	開催時期
1 坂井中	柔道(男・女)	三田中学校	代表 田村 浩	三田中学校	柔道	8/6, 7
2 三田中	ソフトテニス	三田中学校	代表 田村 浩	三田中学校	ソフトテニス	8/6, 7
3 三田中	バドミントン	三田中学校	代表 田村 浩	三田中学校	バドミントン	8/6, 7
4 坂井中	軟式野球	坂井中	代表 田村 浩	坂井中	軟式野球	8/6, 7
5 坂井中	バレーボール(女)	坂井中	代表 田村 浩	坂井中	バレーボール	8/6
6 坂井中	柔道(男・女)	坂井中	代表 田村 浩	坂井中	柔道	8/6, 7
7 坂井中	ソフトテニス(女)	坂井中	代表 田村 浩	坂井中	ソフトテニス	8/6, 7
8 坂井中	バドミントン	坂井中	代表 田村 浩	坂井中	バドミントン	8/6, 7
9 坂井中	バレーボール	坂井中	代表 田村 浩	坂井中	バレーボール	8/6
10 坂井中	バドミントン	坂井中	代表 田村 浩	坂井中	バドミントン	8/6
11 坂井中	バドミントン	坂井中	代表 田村 浩	坂井中	バドミントン	8/6
12 坂井中	バドミントン	坂井中	代表 田村 浩	坂井中	バドミントン	8/6
13 坂井中	ソフトテニス(男)	坂井中	代表 田村 浩	坂井中	ソフトテニス	8/6, 7
14 坂井中	バドミントン(男・女)	坂井中	代表 田村 浩	坂井中	バドミントン	8/6, 7
15 坂井中	バドミントン(男)	坂井中	代表 田村 浩	坂井中	バドミントン	8/6, 7
16 坂井中	バドミントン(女)	坂井中	代表 田村 浩	坂井中	バドミントン	8/6, 7
17 坂井中	バドミントン(男)	坂井中	代表 田村 浩	坂井中	バドミントン	8/6, 7
18 坂井中	バドミントン(女)	坂井中	代表 田村 浩	坂井中	バドミントン	8/6, 7
19 坂井中	バレーボール(男)	坂井中	代表 田村 浩	坂井中	バレーボール	8/6

【生徒・保護者への啓発チラシ】

参考資料（活動写真）



未来のブカツ

中学校部活動が変わります！



地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和5年

推進委員会設置
検討開始

受け皿団体や指
導者の選定
モデル事業実施

令和6年

学校現場との調整
支援団体と連携

生徒、保護者へ
の説明

地域クラブ活動の
開始

令和7年

地域クラブ活動
の拡大

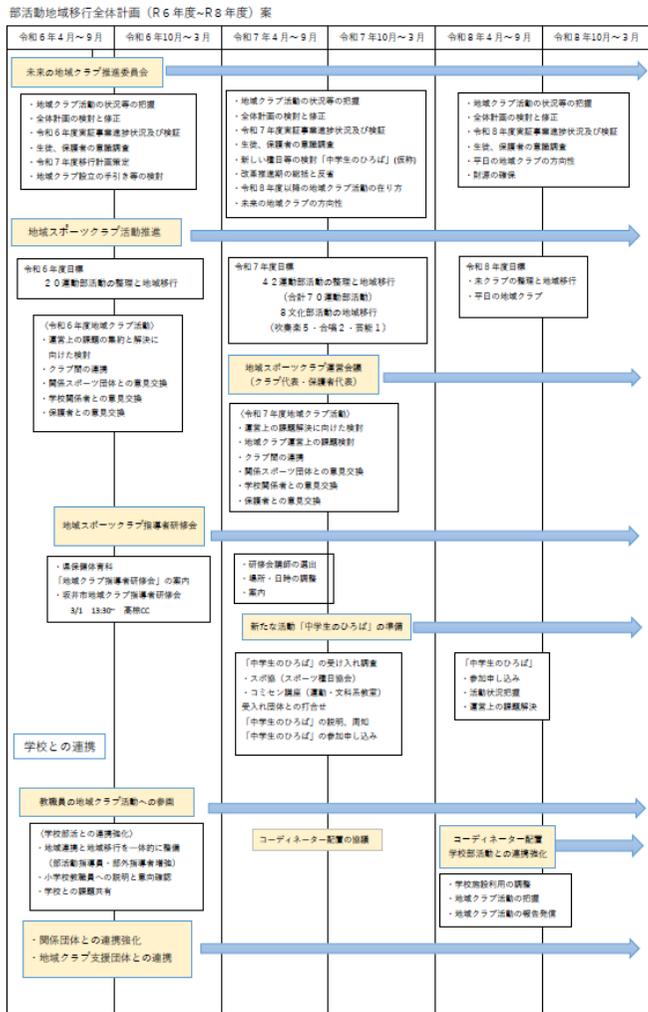
- ステークホルダー
小・中学校
- 経過
校長会での説明
中学校長会との協議
教職員対象の説明会
部活動別の相談活動
部活動顧問会への出席（コーディネーター）
- 実施にあたって生じた課題
学校部活動への根強い期待
- 実施内容、工夫した点 等
・長期的なビジョンでの説明
・地域クラブと学校の連携の仕方
・生徒、保護者に寄りそった計画

- ステークホルダー
スポーツ関係団体
- 経過
関係づくり
- 実施にあたって生じた課題
市関係のスポーツ団体には、地域移行について上位団体からの情報がなく、窓口もない状態で消極的な対応に思えた。
- 実施内容、工夫した点 等
・話を聞いてもらえる場の設定
・具体的な課題を示して相談
・担当窓口の確認と確保

- ステークホルダー
地域指導者
- 経過
・指導者にむけた事業の趣旨やガイドラインの説明、意見交換
・指導者のもつ困り感の解消
- 実施にあたって生じた課題
さまざまな経歴の指導者が存在し、中学校の部活動が将来的にどうなるのかについての意見が多くみられた
- 実施内容、工夫した点 等
・学校現場が抱える課題を説明
・事務的負担の軽減への取り組み
・市が果たすべき役割の明示化と意見聴取
・地域クラブの理念の共有

3. 今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ



未来のブカツ

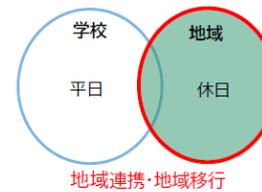
～広げようスポーツ・文化芸術活動の輪～

中学校部活動が変わります

坂井市では、少子化の影響によって中学校の部活動数や部員数は減少していく現状を憂慮して、将来にわたり生徒がスポーツ・文化芸術活動に継続して親しむ機会を確保していきます。平日は学校部活動、休日は地域クラブとして学校と地域の連携・協働により生徒の活動の場を整備していきます。

活動の機会を持続・保障する教育環境整備

- 部活動の教育的意義や伝統を継承
生徒主体的な活動、異学年の交流、顧問との共有時間
社会性の成長(責任感、協調性、自律心など)
- 学校と地域の協働体制の構築
平日は部活動、休日は地域クラブ、教員と指導者の連携
学校施設や備品等の共有、



整備の進捗状況と今後の予定(文化部も含む)

	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
休日活動の部活動数(78)	6	27 (9月現在 19)	45	地域クラブ以外は休日の活動休止

To challenge 通信 vol.2
発行 坂井市教育委員会 生涯学習スポーツ課



「地域の子供たちは、学校と地域で育てる」

地域クラブのメリット

- ・専門的な指導で満足度UP
- ・少人数でも大会参加
- ・持続性を重視した組織づくり
- ・学校施設や備品の利用可能

問い合わせ
坂井市生涯学習スポーツ課
担当 脇谷・後藤
TEL 0776-50-3162

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

福井県 永平寺町

自治体名：福井県吉田郡永平寺町

担当課名：永平寺町教育委員会 学校教育課

電話番号：0776-61-3937

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	94.34 km ²
人口	17,604人
公立中学校数	3校
公立中学校生徒数	470人
部活動数	22部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	未策定

令和7年2月1日時点

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

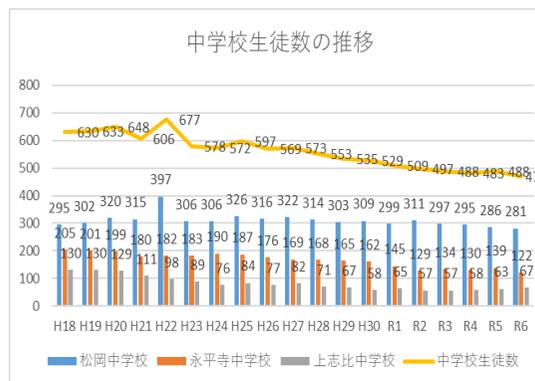
本町の中学校は3校あり、生徒数が281名、122名、67名の小規模校となっているが、少子化に伴う生徒の減少により、今後、一層、存続が難しい部活動が出るのが予想される。部活動は、任意加入としているが、多くの生徒が加入し活動している。

平成30年にスポーツ庁及び文化庁が「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」「文化部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」を公表し、平成31年2月に福井県教育委員会が「部活動の在り方に関する方針」を公表したことに伴い、本町においても平成31年3月に「中学校における部活動の方針」を策定した。本方針では、部活動の意義・目的の共有、適

切な運営のための体制を整備し、活動時間、部活動数、1部活を複数教員で指導する、適正な休養日等の設定などを示している。

また今年度は昨年度に引き続き、すべての運動部に外部指導者を配置。昨年度よりも休日の活動を地域移行クラブとする数を増やし、地域移行の実証を進めている。

地域連携・地域移行の課題としては、指導者を継続して確保できるか懸念される点や、来年度以降の地域移行の方針の決定、本格的にクラブとして活動していくにあたり、クラブの運営費の面について、財政支援の検討等も含めた費用負担の在り方等の受益者負担の仕組みの構築が考えられる。

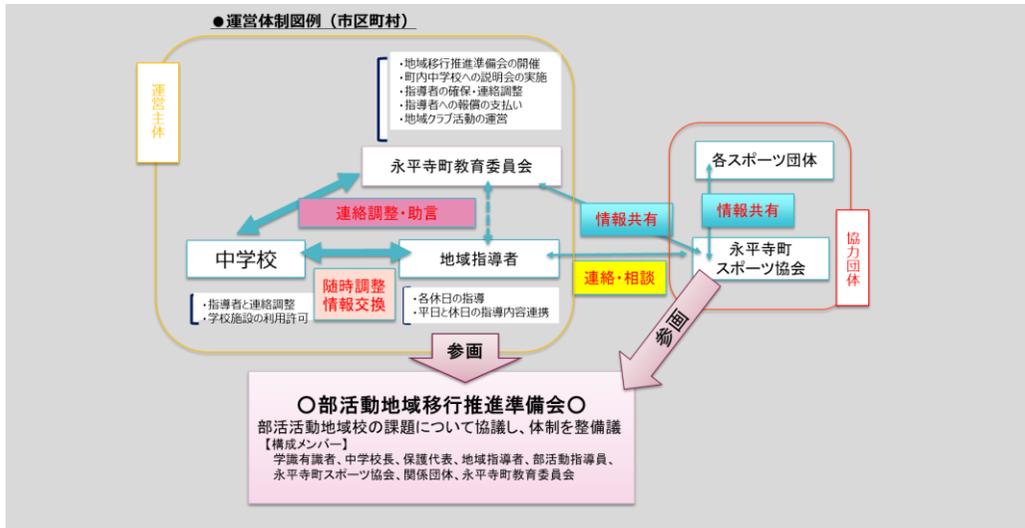


区分	児童(人)	教員(人)	部活動数	内運動部	運動部外部指導者配置人数
松岡中学校	281	26	11	9	9
永平寺中学校	122	15	7	5	9
上志比中学校	67	12	4	3	4
合計	488	53	22	17	22

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会（学校教育課）

- 各学校、地域指導者に連絡調整、助言を行う。
- 永平寺町スポーツ協会との情報共有。

◎各学校

- 地域指導者との連携。平日と土日の指導内容の共有など。
- 永平寺町スポーツ協会との情報共有。

◎永平寺町スポーツ協会

- 永平寺町教育委員会、各スポーツ団体との情報共有。
- 特に各スポーツ団体からの情報を地域指導者への連絡、相談。

年間の事業スケジュール

令和6年4月	休日のクラブ活動の実施
令和6年5月	部活動地域移行推進準備会の設置と第1回準備会の開催
令和6年8月	第2回準備会の開催
令和6年9月	第3回準備会の開催
令和6年10月	休日の部活動地域移行についての保護者説明会を開催
令和6年10月	地域スポーツクラブ活動指導者研修会を開催（県主催）
令和6年11月	第4回準備会の開催
令和7年2月	第5回準備会の開催
令和7年3月	学校と外部指導者の最終確認



令和7年度より
部活動の休日の活動を
地域移行クラブに地域移行

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	3校	実施した地域クラブ総数	13クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		13クラブ（14部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		0クラブ
全体の指導者数	17人	全体の運営スタッフ数	17人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
松岡中野球クラブ	永平寺町教育委員会	野球	週1回（土日いずれか）	9：00～12：00（基本）	1年 5名 2年 9名 3年 10名 ※3年生は10月まで	R6.4～R7.3	松岡中学校グラウンド	1人	3人（内、兼務2人）	なし	中体連：部活動 その他：地域クラブ
松岡中ソフトボールクラブ	永平寺町教育委員会	ソフトボール	週1回（土日いずれか）	9：00～12：00（基本）	1年 7名 2年 9名 3年 8名 ※3年生は10月まで	R6.4～R7.3	松岡中学校グラウンド	1人	3人（内、兼務2人）	なし	中体連：部活動 その他：地域クラブ
松岡中女子バスケットボールクラブ	永平寺町教育委員会	バスケットボール	週1回（土日いずれか）	9：00～12：00（基本）	1年 7名 2年 9名 3年 9名 ※3年生は10月まで	R6.4～R7.3	松岡中学校体育館	1人	3人（内、兼務2人）	なし	中体連：部活動 その他：地域クラブ
松岡中男子卓球クラブ	永平寺町教育委員会	卓球	週1回（土日いずれか）	9：00～12：00（基本）	1年 6名 2年 0名 3年 3名 ※3年生は10月まで	R6.4～R7.3	松岡中学校体育館	1人	3人（内、兼務2人）	なし	中体連：部活動 その他：地域クラブ

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に(新)を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
松岡中女子卓球クラブ	永平寺町教育委員会	卓球	週1回(土日いずれか)	9:00~12:00(基本)	1年 3名 2年 6名 3年 3名 ※3年生は10月まで	R6.4~R7.3	松岡中学校体育館	1人	3人(内、兼務2人)	なし	中体連:部活動 その他:地域クラブ
松岡中サッカークラブ	永平寺町教育委員会	サッカー	週1回(土日いずれか)	9:00~12:00(基本)	1年 11名 2年 13名 3年 7名 ※3年生は10月まで	R6.4~R7.3	松岡中学校グラウンド	2人	3人(内、兼務2人)	なし	中体連:部活動 その他:地域クラブ
松岡中剣道クラブ	永平寺町教育委員会	剣道	週1回(土日いずれか)	9:00~12:00(基本)	1年 8名 2年 5名 3年 5名 ※3年生は10月まで	R6.4~R7.3	松岡中学校武道場	1人	3人(内、兼務2人)	なし	中体連:部活動 その他:地域クラブ
永平寺中野球クラブ	永平寺町教育委員会	野球	週1回(土日いずれか)	9:00~12:00(基本)	1年 5名 2年 9名 3年 10名 ※3年生は10月まで	R6.4~R7.3	永平寺中グラウンド	2人	3人(内、兼務2人)	なし	中体連:部活動 その他:地域クラブ
永平寺中サッカークラブ	永平寺町教育委員会	サッカー	週1回(土日いずれか)	9:00~12:00(基本)	1年 5名 2年 9名 3年 10名 ※3年生は10月まで	R6.4~R7.3	永平寺中グラウンド	2人	3人(内、兼務2人)	なし	中体連:部活動 その他:地域クラブ
永平寺中卓球クラブ	永平寺町教育委員会	卓球	週1回(土日いずれか)	9:00~12:00(基本)	1年 5名 2年 9名 3年 10名 ※3年生は10月まで	R6.4~R7.3	永平寺中体育館	2人	3人(内、兼務2人)	なし	中体連:部活動 その他:地域クラブ

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
上志比中野球クラブ	永平寺町教育委員会	野球	週1回（土日いずれか）	9:00～12:00（基本）	1年 5名 2年 9名 3年 10名 ※3年生は10月まで	R6.4～R7.3	上志比中グラウンド	1人	3人（内、兼務2人）	なし	中体連：部活動 その他：地域クラブ
上志比中卓球クラブ	永平寺町教育委員会	卓球	週1回（土日いずれか）	9:00～12:00（基本）	1年 5名 2年 9名 3年 10名 ※3年生は10月まで	R6.4～R7.3	上志比中体育館	1人	3人（内、兼務2人）	なし	中体連：部活動 その他：地域クラブ
上志比中バレーボールクラブ	永平寺町教育委員会	バレーボール	週1回（土日いずれか）	9:00～12:00（基本）	1年 5名 2年 9名 3年 10名 ※3年生は10月まで	R6.4～R7.3	上志比中体育館	1人	3人（内、兼務2人）	なし	中体連：部活動 その他：地域クラブ

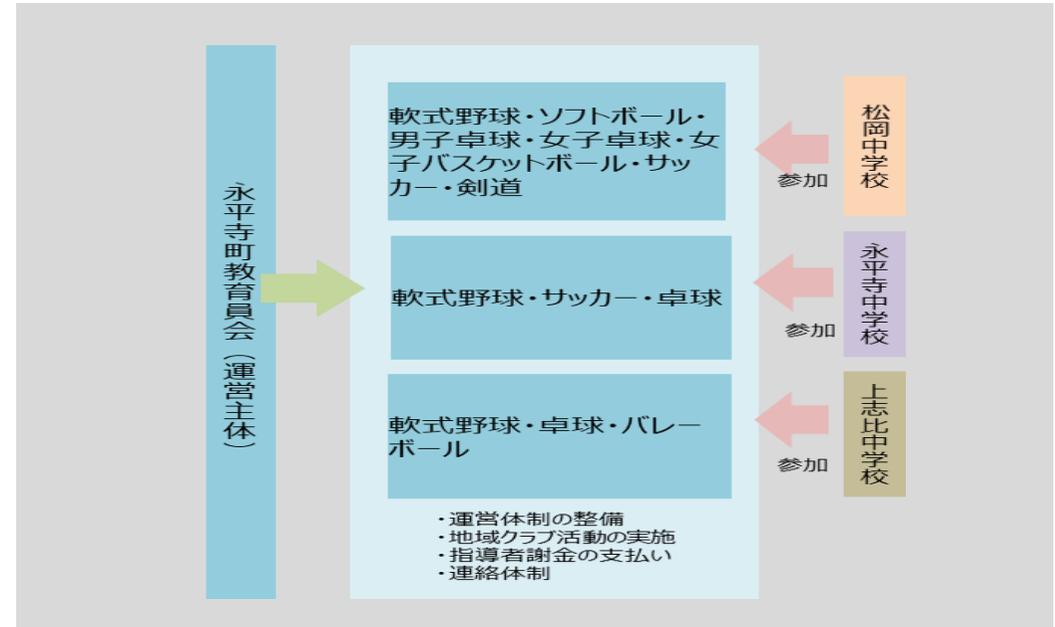
2.実証内容と成果

主な取組例

●松岡中野球クラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	野球
運営団体名	松岡中野球クラブ
期間と日数	野球：令和6年4月1日～ 令和7年1月31日 月4回程度
指導者の主な属性	競技経験者
活動場所	松岡中学校グラウンド
主な移動手段	徒歩・自転車・保護者送迎
1人あたりの参加会費等（年額）	なし（今年度で検証：約3千円予定）
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

- 指導者 1～2名
役割：活動における主任者として、生徒への指導を行う。
- 運営補助者 3名
役割：指導者、学校、保護者との連携、活動報告とりまとめを行う。
指導者への謝金の支払い処理をおこなう。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

学識有識者、外部指動者、保護者代表、学校長、町スポーツ協会を委員にした**永平寺町部活動地域移行推進準備会**を設置。関係者（指導者・団体等）との連携強化し、本町の方針を決定や休日の部活動地域移行の体制整備を行った。

取組の成果

永平寺町の方針の決定

『**令和7年度より、平日は部活動として活動（教員もしくは部活動指導員）し、休日は地域移行クラブとして活動（地域指導者のみ）**』

⇒保護者説明会を開催し周知説明。

【開催内容】

年度	開催月	開催数	協議事項等
令和6年度	5月15日	第1回	・部活動地域移行推進準備会を設置 ・現状の把握と課題の洗い出し
	8月5日	第2回	・今後の方向性と活動状況の報告 ※R7年度から「平日は部活動として、休日は地域移行クラブとして活動」を基本とすることで了承 ・費用負担のあり方（保護者負担など）
	9月26日	第3回	・地域クラブ活動にかかる概算費用の算出 ・指導者・活動場所の確保、補助金の検討 ・学校部活動と地域クラブ活動の体制（学校行事や施設利用の調整）づくり など
	10月		小中学校保護者および教員への説明会
	11月22日	第4回	・協議事項の確認（年内に地域移行に係る協議事項を確定） ・部活動およびクラブ活動に係る費用の予算化
	2月12日	第5回	・地域移行クラブ活動の最終確認（来年度の活動に関するお願い、進捗状況等） ・今年度の協議事項の最終確認
	3月		・学校とR7外部指導者との打合せ

主な協議内容

○費用負担の在り方

- ・消耗品費、修繕費料、大会参加費（中体連、アンサンブルコンテスト等）、中体連バス借上げ料については町の負担
- ・生徒、指導者の保険料、指導者への謝礼、その他諸経費については受益者負担
ただし、令和7年度については指導者謝礼の一部を町が支援

○活動場所の確保

学校体育施設については利用料無料。部活から地域移行クラブとなった場合も、優先的に利用ができるように、年間の利用を割り振り、その中で調整を行う。

○練習試合などのコーディネート

平日との連携もあるため、指導者と連絡を取り顧問が連携して行う。指導者が希望する場合は指導者とする。

○指導者の確保

今度も協議が必要となるが、保護者の協力や地域全体で指導者を確保していく。小・中・社会人の連携体制構築を構築し、将来的には、地域の子供たちが大人になって経験者として子供たちに指導者をしてくれるような体制ができるとうい。

今後の課題と対応方針

令和7年度の休日の活動の地域移行に向けて、指導者を中心とした準備会にて各競技の現状も踏まえて、課題を洗い出し、協議することができた。来年度以降、本格的に活動することで見えてくる課題や必要な体制整備について、継続的に協議していく必要がある。

取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保②

指導者研修の内容

地域スポーツクラブ活動における指導者が、生徒にとって望ましい適切な指導方法を学び、指導者としての資質向上を図るため、年4回実施する福井県教育委員会主催の『令和6年度 地域スポーツクラブ活動指導者研修会』について、1回を本町で開催した。

【研修会の内容】

地域スポーツクラブ活動における指導

- ・運動部活動の現状
- ・中学生への適切な指導
- ・スポーツ指導におけるハラスメント
- ・安全管理
- ・熱中症対策について 等

※主にハラスメントについて重点をおいた内容。

指導者研修の参加実績

- ・開催日：10月6日
- ・開催回数：1回
- ・本町参加人数：10人

準備会及び、各学校、スポーツ協会より関係団体に周知し、参加者を募った。

受講者の声

分かりやすく、内容も興味深かった。

中学生という子どもと大人の間にいる年代への指導を考える機会となった。熱中症の対応についても聞くことができ、参考になった。



今後の課題と対応方針

日頃より指導者としての意識を高め、質の向上の必要性を感じている地域指導者は、率先して研修を受講していただいた。今後、指導者としての質を高めるためには、技術的指導の向上だけでなく、指導中の事故防止や体罰、ハラスメント等の観点からも研修が必要であることを伝え、指導者の研修会等の参加率を高める。また、研修会の情報を周知する。今後は、関係団体とも連携して独自の研修会も検討していきたい。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

○地域全体で部活動の地域移行の体制整備等を行うため、学校、保護者、外部指導者、関係団体との連携を強化する。

取組の成果

学識有識者、外部指動者、保護者代表、学校長、町スポーツ協会を委員にした永平寺町部活動地域移行推進準備会を設置し、年間5回の準備会を開催し、地域移行の課題について協議。連携を強化する中で、令和7年度に向けた休日の部活動の体制を整備した。

年度	開催月	開催数	協議事項等
令和6年度	5月15日	第1回	・部活動地域移行推進準備会を設置 ・現状の把握と課題の洗い出し
	8月5日	第2回	・今後の方向性と活動状況の報告 ・費用負担のあり方（保護者負担など）
	9月26日	第3回	・地域クラブ活動にかかる概算費用の算出 ・指導者・活動場所の確保、補助金の検討 ・学校部活動と地域クラブ活動の体制（学校行事や施設利用の調整）づくり など
	11月22日	第4回	・協議事項の確認（年内に地域移行に係る協議事項を確定） ・部活動およびクラブ活動に係る費用の予算化
	2月12日	第5回	・地域移行クラブ活動の最終確認（来年度の活動に関するお願い、進捗状況等） ・今年度の協議事項の最終確認

今後の課題と対応方針

永平寺町部活動地域移行推進準備会の中で、学校、外部指導者、関係団体と地域移行の課題の洗い出しや体制整備について協議おこなったことで、繋がりを強化することができた。次年度以降についても引き続き連携を強化して、地域全体で部活動の地域移行を進めて行く。



2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等①

取組事項

受益者負担等と公的資金の適切なバランスの検証

取組の成果

今年度は、4月から翌年1月末の指導者謝金について公費で賄い、保護者の負担を軽減した。この取り組みの中で、休日のクラブ活動について、備品、消耗品については、平日の学校部活動との共有することで活動する経費負担を小さくできるが、新たに発生する指導者への謝金が活動費の多くを占め、休日のクラブ活動に関して保護者の負担となることが分かった。

この課題について、部活動地域移行推進準備会にて協議し、来年度については、受益者負担を削減するため、指導者謝礼の一部を町が新たに支援することとなった。※詳細についてはP12.P13を参照。

▼クラブ別年間活動回数、活動時間時間、謝金額 時給1,600円

	地域移行クラブ名	活動回数(回)	活動時間(時間)	謝金額(円)
松岡中	野球クラブ	42	126	201,600
	ソフトボールクラブ	13	37.5	60,000
	女子バスケットボールクラブ	37	111	177,600
	女子卓球クラブ	36	108	172,800
	男子卓球クラブ	37	111	177,600
	サッカークラブ	30	90	144,000
	剣道クラブ	36	108	172,800
永平寺中	卓球クラブ	17	51	81,600
	野球クラブ	36	108	172,800
	サッカークラブ	18	54	86,400
上志比中	バレーボールクラブ	13	39	62,400
	卓球クラブ	26	74	118,400
	野球クラブ	30	90	144,000
期間：令和6年4月～令和7年1月			1107.5	1,772,000

今後の課題と対応方針

来年度より休日の活動を地域移行クラブに移行し運営するにあたり、すべてを受益者負担とするには保護者の負担が多すぎることから、指導者謝金については一部を町が支援することとし、消耗品費や中体連の大会参加費等についても、現在と同様に町が支援を継続するとして、保護者の負担を軽減することとした。ただし、この支援も恒久的に続けるには無理があるため、今後はクラブが自走できるようにどのように伴走支援を行うのかについて、クラブと連携をとって対応していくことが課題である。また、会費については、競技性もあり一律とすることは困難であるため競技毎に設定することとなったが、クラブで大きな差が出ないような適切な価格の設定が今後の課題である。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



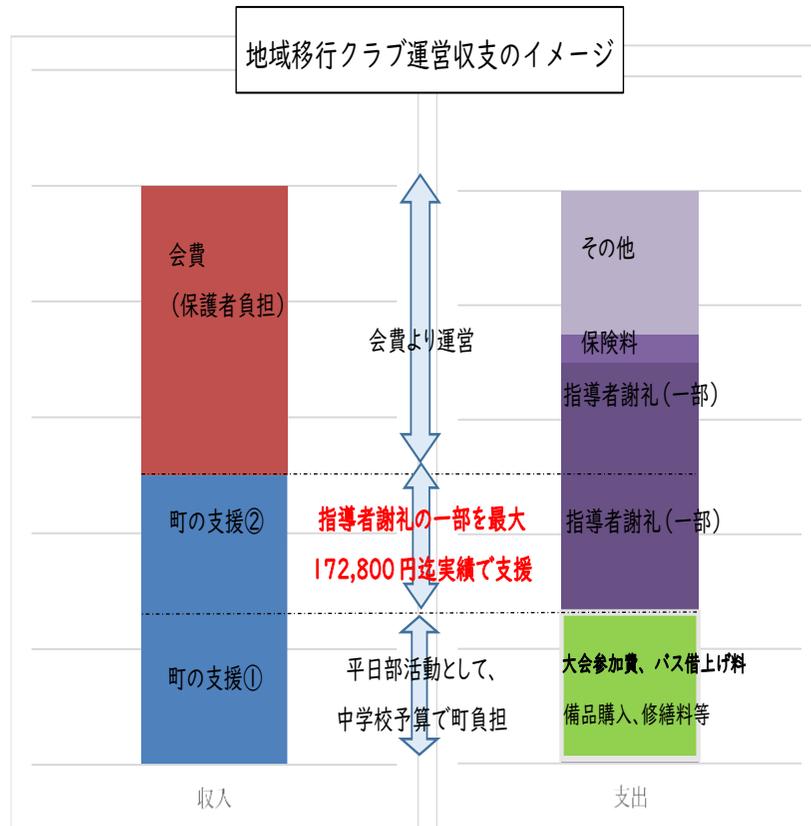
取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等②

取組事項

令和7年度から休日の活動を地域移行クラブに移行するため、収支バランスについて検証。（準備会にて協議）

収支バランス



【地域移行クラブ活動予算】会費（保護者負担）

- ・指導者謝礼・・・町の支援②として一部を町が負担・保険料（指導者・生徒）
- ・その他（大会参加費・活動諸経費）

【部活動予算・・・学校予算】町の支援①

- ・消耗品費
- ・修繕費料
- ・中体連、アンサンブルコンテスト等の大会参加費
- ・中体連バス借上げ料（練習試合については基本、保護者送迎。）

【町の支援②について】

指導者への謝礼を各地域移行クラブ最大172,800円*まで町が支援。（実績で支給）

*年間48回の活動のうち、36回分（3時間×時給1,600円）の一名分の金額

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等③

取組事項

財政支援額を基に、地域移行クラブ活動の持続的な運営に必要な受益者負担額の試算。

地域クラブに係る経費

■イニシャルコストの分析

備品、消耗品については、平日の学校部活動との共有。学校予算として公費で賄う。

■ランニングコストの分析

- ・指導者謝金（460,800円）
- ・保険料（19,700円）
- ・クラブ運営費（239,500円）

持続的な運営に必要な受益者負担額の試算

【クラブ運営シミュレーション】

- ・年間活動回数 48回（月4回×12カ月）
- ・指導者 2名
- ・クラブ生徒20人（各クラブ平均人数）

町内のスポーツ少年団等の会費の平均が約3,000円より、受益者負担を同額で試算。

- 年間クラブ収入額 $20人 \times 3,000円 \times 12カ月 = 720,000円$
- 年間クラブ支出額 謝金、保険料（指導者+生徒）、その他（クラブ運営費）
- ＜謝金＞
1回の指導に対する謝礼 9,600円（時給1,600円×3時間×2人）
年間の48回の謝礼 $9,600円 \times 48回 = 460,800円$

最大172,800円を実績に応じて町が支援（時給1,600円×3時間×36回×1人）

＜保険料＞

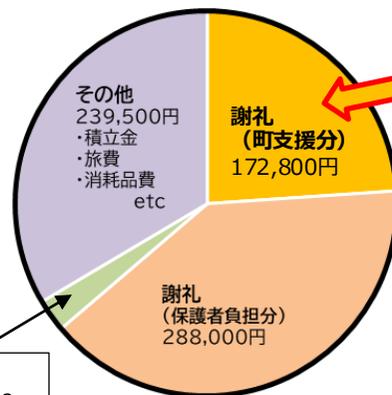
指導者分 $1,850円 \times 2名 + 生徒分 800円 \times 20人 = 19,700円$

＜その他＞

クラブの積立金や旅費、消耗品費などクラブの運営費に使用 239,500円

持続的な運営に必要な会費設定についての協議結果

会費の設定については、競技毎に状況等が異なることから、一律とせず、クラブ毎で設定することが望ましい。ただし、差が大きくなるよう適切な額を設定することが今後の課題でもある。目安としては月3,000円程度。



保険料 19,700円
 指導者 (1,850円) × 2 +
 生徒 (800円 × 20人)

■ 謝礼① ■ 謝礼② ■ 保険料

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

【参加費用負担の支援】

町内3中学校の8種目14の部活動の休日の活動を13の地域移行クラブとして行い、4月から翌年1月迄の活動の謝金を公費で賄い、参加費用負担の支援を行った。

【部活動地域移行推進準備会の設置】

今年度、学識有識者、外部指動者、保護者代表、学校長、町スポーツ協会を委員にした永平寺町部活動地域移行推進準備会を設置し、関係者との連携強化。地域移行の課題を協議し、休日の部活動地域移行の体制整備を行った。

▶主な協議内容

永平寺町の方針、費用負担の在り方、活動場所の確保、練習試合等のコーディネート、指導者の確保

【その他】

・保護者説明会の開催

町の方針と来年度からの休日の部活動地域移行について保護者に周知、説明し理解を図った。

・地域スポーツクラブ活動指導者研修会の開催（共催）

県主催の地域クラブ指導者研修会を本町で開催。

●成果の評価

成果については以下の6点が挙げられる。

【参加費用の負担の支援について】

○指導者謝礼を公費で賄うことで、保護者が金銭的負担はなく、活動を行うことができた。（活動場所の学校体育施設は町の方針により無償で利用。）

【部活動地域移行推進準備会の設置について】

○休日の活動を地域移行していく上での課題の洗い出しや休日の部活動地域移行の体制整備について協議することができた。

○本町の方針を決定し、保護者に周知することができた。

○今後の地域移行クラブの運営についての話し合いと決定（保護者会が運営）

○今年度の結果から受益者負担等と公的資金の適切なバランスを検証し、次年度の、行政の財政支援を決定することができた。

上記の成果より、本町においては令和7年度より、休日の部活動を地域移行クラブに移行して活動することとなり、休日の部活動の地域移行を促進することができた。

●今後に向けて

将来的には、保護者会が主体となり、地域移行クラブの運営を行うこととして、来年度より、休日の部活動を試行的に地域移行クラブに移行するが、今実際にやってみることで出てくる課題等については継続的に協議を重ね、体制を整備していく必要がある。また、今後も継続的に町がバックアップを行い、地域と行政が連携して平日の活動も視野に入れた部活動の地域展開を模索していく必要がある。

2.実証内容と成果③

関係資料

永教学第 500号
令和6年4月30日

外部指導者各位

永平寺町学校教育課長
(公印省略)

永平寺町部活動地域移行推進準備会の開催について

暮春の候、貴殿におかれましては益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素は、町行政に対しまして、多大なるご支援、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、国は、教員の働き方改革の一環で、休日の部活動の地域移行を進めようとしており、令和5年度から7年度を改革推進期間とし、令和8年度には地域移行の方針です。現在、永平寺町においては、休日の教員の部活動指導回数を減らすなどして取り組みを行っているところですが、今年度、永平寺町部活動地域移行推進準備会を設置する運びとなりました。

つきましては、外部指導者の皆様は、誠に勝手ではございますが、「部活動地域移行推進準備会」の一員として是非参画をお願いいたし、ご理解とご協力の程よろしくお願い申し上げます。

なお、早速ではございますが、第1回目の会議を下記のとおり開催いたしますので、お仕事などでご多忙中とは存じますが、何卒ご出席賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。出欠につきましては5月10日（金）までに学校教育課、若しくは中学校までご連絡いただきますよう、よろしくお願ひいたします。

記

1. 日 時 令和6年5月15日（水）午後7時より
2. 場 所 永平寺開発センター（永平寺支所横）3階 大ホール
3. 内 容 学校における部活動の現状及び課題について



永平寺町
LINE



永平寺町
防災メール

事務担当者
永平寺町学校教育課
TEL0776-61-3937
FAX0776-61-3938

※スマートフォンでQRコードを読み取って登録できます。
是非ご登録ください。

【部活動地域移行推進準備会開催通知】

参加費用負担の支援にて判明した、受益者負担の課題について、部活動地域移行推進準備会にて、費用負担の在り方について協議。来年度から地域移行クラブにて休日の活動を運営していく際の、財政支援について決定した。

資料3

『地域移行クラブ』で活動する際の留意点

永平寺町は、令和7年度より、休日の部活動において教員（顧問）が指導を行わない方針です。それに伴い、子どもたちの活動機会を確保するために、休日の活動は地域の外部指導者による「地域移行クラブ」として実施します。ただし、地域移行クラブに移行後も、平日の学校部活動は引き続き行われますので、基本的な活動の場は部活動です。また、地域移行クラブの活動は、「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」に基づいて運営されますので、これに沿った形での活動となることにご留意ください。

※地域移行クラブ…部活動の休日の活動を行う地域移行クラブであり、部活動のガイドラインに沿った活動を行う。町の支援の対象。スポーツ少年団やボーイズ等のクラブ（ガイドライン対象外）とは異なる。

① 1日の活動時間
休日の活動は3時間（平日の学校部活動は1～2時間程度）

②適切な休養日の設定

- ・平日の学校部活動は、平日1日を休養日とする。
- ・休日の地域移行クラブは、休日のうち1日を休養日とする。
- ・休日に大会参加等で活動した場合は、休養日を他の休日に振り替える。

★『平日の部活の日に2日休養日をとるので、地域移行クラブで土日両日活動する。』ということは、原則出来ません。』

- ・休日で年間52日以上の休養日を確保する。
- ③地域移行クラブのメンバーは町内在住の中学生。（他市町からの受入不可。）
- ④スポーツ安全保険に必ず加入する。（文化部も）

①②は中体連の参加要件。違反した場合は、中体連の参加資格がなくなりますのでご留意ください。
①～④を遵守して活動いただくと地域移行クラブとなります。また、地域移行に関する調査等にご協力いただくことで、町の支援対象となります。



地域の皆様をお願いしたいこと

【保護者会の設立と運営】

具体的には…

- ・規約の作成・会計処理・クラブ運営のご協力（指導者の補助、大会参加時の補助、練習場所や会場までの送迎等）

子ども達の活動の場の確保のため、ご理解とご協力をお願いします。

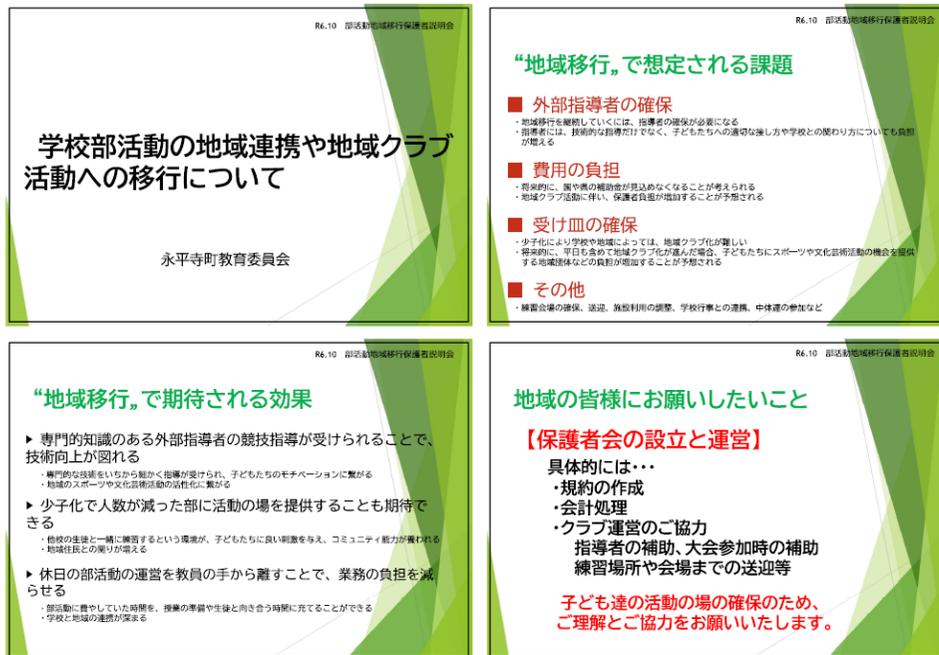
p. 5

※保護者会が設立しましたら、教育委員会までご連絡ください。

【部活動地域移行推進準備会会議資料一部抜粋】

関係資料

町内3地区毎に中学校で保護者説明会を実施。部活動地域移行推進準備会で決定した町の方針の報告と、来年度からの休日の地域移行について説明し、保護者への理解と協力をお願いした。



【保護者説明会資料一部抜粋】

資料3

R6.11.21 第4回部活動地域移行推進準備会 配布資料

部活動地域移行保護者説明会について(報告)

【上志比地区】10月21日 19:00～ 上志比中ランチルーム
参加した保護者数31名(中学校19名 小学校12名)



【永平寺地区】10月25日 19:00～ 永平寺中体育館
参加した保護者数31名(中学校16名 小学校15名)



【松岡地区】10月30日 19:00～ 松岡中体育館
参加した保護者数62名(中学校26名 小学校36名)

保護者からの質問・意見

Q: 現在、顧問の先生は月1回と聞いているが、部活毎でばらつきがある点(毎週顧問が来ている部や、月一回のみの部など)について子供たちからすると不公平があるように思える。来年度からは、ばらつきがないようにしてもらいたい。

A: 兼職兼業について説明。兼職兼業を出した場合は、教員ではなく外部指導者として関わっていく。

Q: 高校進学の部活動推薦について、地域移行クラブの成績も考慮してもらえるのか。
A: 現在は選抜推薦。地域移行クラブになっても部活動との違いはない。

Q: 外部指導者が不在の場合は来年度から活動ができないということか。(松中男子バスケ)
A: ①教員に兼職兼業にて地域指導者になってもらう。②協会への指導者派遣要請。

Q: 外部指導者になるためのライセンスなどは必要なのか。
A: 現在は学校長の推薦によって教育長が地域指導者として委嘱している。中体連の規定で、指導者を資格取得者としている競技もある。

Q: 指導者に対する謝礼について再度教えて欲しい。
A: R6は町が全額、指導者の謝礼を支払っているが、R7は一部支援となる。支援以外は保護者負担となる。(会費を徴収してクラブから支払う。)

【保護者説明会報告資料】

2.実証内容と成果④

参考資料（活動写真）



キャッチボール時の投げ方の指導
【松岡中ソフトボールクラブ】



間合いの詰め方と攻めの意識の指導
【松岡中剣道クラブ】



多球練習の指導
【永平寺中卓球クラブ】



試合形式の練習時の指導
【永平寺中サッカークラブ】

2.実証内容と成果④

参考資料（活動写真）



試合中のアドバイス
【松岡中女子バスケットボールクラブ】



【保護者説明会(松岡地区)】



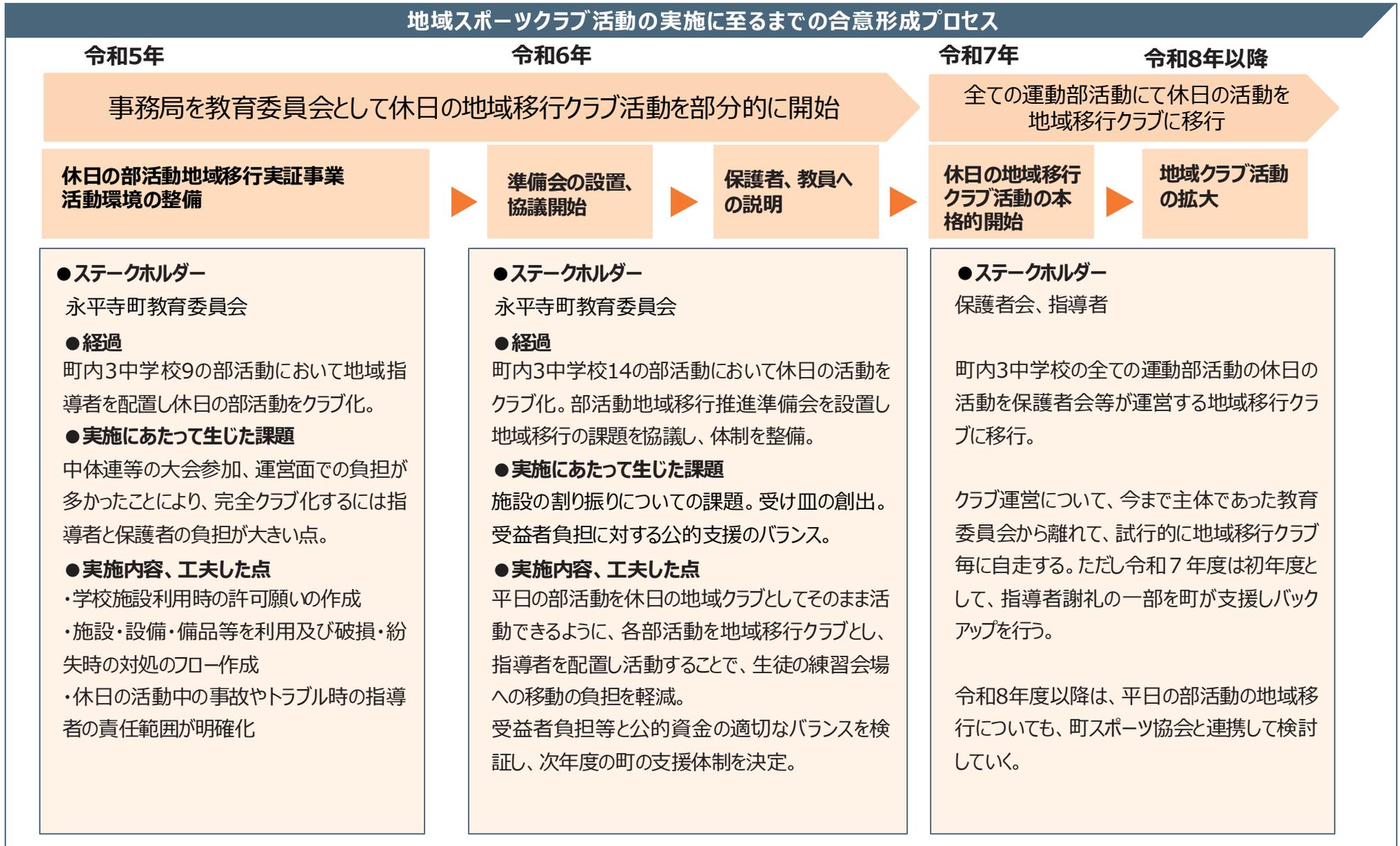
【永平寺町部活動地域移行推進準備会】



【地域スポーツクラブ活動指導者研修会】

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



2.実証内容と成果

